

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展							
【年度計画】								
①平常展 (4館共通)								
1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (東京国立博物館)								
1) 「日本美術の流れ」を中心とする本館の日本美術、平成館の日本考古、東洋館の東洋美術、黒田記念館の近代洋画など、各種展示の更なる充実を図る。								
2) 特集 テーマ性を持った展示を各種実施し、調査研究成果を公開するとともに、平常展の更なる充実を図る。								
・「東京国立博物館コレクションの保存と修理」(3月12日～4月7日)								
・「密教彫刻の世界」(3月19日～6月23日)								
・上野動物園・国立科学博物館との連携企画 親と子のギャラリー「ツノのある動物」(4月16日～5月26日)								
・「平成30年度新収品展」(6月4日～7月15日)								
・「やちむん―沖縄のやきもの」(6月25日～9月16日)								
・「親と子のギャラリー 日本のよろい!」(7月17日～9月23日)								
・「焼き締め茶碗の美―備前・信楽・伊賀・丹波―」(9月18日～12月8日)								
・「平安時代の書―美―春敬の眼―」(10月1日～11月17日)								
・「天皇と宮中儀礼」(10月8日～2020年1月19日)								
・「平家納経模本の世界―益田本と大倉本―」(10月22日～12月8日)								
・「中国書画精華―日本における愛好の歴史」(10月29日～12月25日)								
・「近世日本と外国文化」(11月19日～12月25日)								
・「伝説の面打ちたち」(2020年1月2日～2月24日)								
・「博物館に初もうで 子・鼠・ねずみ」(2020年1月2日～1月26日)								
・「生誕550年記念 文徴明とその時代」(2020年1月2日～3月1日)								
・「朝鮮王朝の宮廷文化」(2020年2月4日～3月15日)								
・「おひなさまと日本の人形」(2020年2月26日～3月22日)								
3) 文化庁関係企画 「平成31年 新指定 国宝・重要文化財」(4月16日～5月6日)にて、31年度新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。								
4) トーハク新時代プランに基づき、レプリカ、VR、8K映像等を活用した新感覚の展示を行う。								
担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者	課長 救仁郷秀明			
【実績・成果】								
(4館共通)								
平常展来館者数は、1,030,652人と目標値を大幅に上回り、展示替件数は5,813件と目標値に到達しなかった。 (東京国立博物館)								
1) 定期的な展示替を実施し、5,813件の展示替えを行った。展示総件数は9,267件である。								
2) 18件の特集、1件の特別企画を実施した。								
3) 「平成31年 新指定 国宝・重要文化財」を実施し、新指定となった美術工芸品の一部を、本館の8室および11室において展示した。								
4) 「8Kで文化財 国宝「聖徳太子絵伝」2019」を法隆寺宝物館で実施した。また、親と子のギャラリー「日本のよろい!」と連動して、屏風の高精細レプリカを間近で鑑賞することでよろいがどのように着用されていたかの想像を促した。また、現代に作られた鎧を実際に着用する体験型の展示を実施した。								
【補足事項】								
本館各室の入り口に設置している展示趣旨の解説を見直し、デザインを新しくした。								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
平常展の来館者数	1,030,652人	512,186人	A		747,944	761,709	1,030,180	989,508
平常展の展示替件数	5,813件	6,009件	C	変	6,930	8,538	6,616	5,981
平常展の展示総件数	9,267件	－	－	化	8,911	10,918	10,223	9,253
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 本館 11 室、本館特別 5 室、東洋館 3 室で特別企画を実施したほか、特別展にかかわる展示、毎年恒例の「博物館に初もうで」「東洋館でアジアの旅」など、充実した展覧事業を行った。そのほか、新技術を活用した展示として「8K で文化財 国宝「聖徳太子絵伝」」が好評を博し、新規来館者の獲得につながっているものと思われる。展示替件数については目標値を下回ったが、これはコロナウイルス蔓延が影響したためである、						
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 展示替件数は目標値に達しなかったが、来館者数は目標値を大きく上回った。天皇即位を記念したテーマで特集を実施するなど時宜にかなった魅力的な事業を展開した。また本館各展示室の入口解説(4 言語)を更新し、外国人にとっても魅力的で理解が深まる展示解説を提供し、順調に成果をあげている。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展								
【年度計画】 (4館共通) 1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (京都国立博物館) 1) 明治古都館改修に伴い、平常展示館として計画された平成知新館において特別展も開催するための平常展展示計画を策定し、平常展を行う。 2) 平成知新館において、部門を超えた特別企画、特集展示を行う。 特別企画 ・ ICOM 京都大会開催記念「京博寄託の名宝 一美を守り、美を伝える」(8月14日～9月16日) 特集展示 ・ 「新収品展」(7月2日～8月4日) ・ 「赤ってじつはどんな色？」(7月2日～8月12日) ・ 「子づくしー干支を愛でるー」(2年1月2日～2月2日) ・ 「京都御所障壁画 紫宸殿」(2年1月2日～2年2月2日) ・ 「神像と獅子・狛犬」(2年1月2日～3月22日) ・ 「雛まつりと人形」(2年2月15日～3月22日)									
担当部課	学芸部			事業責任者	企画室長 山川 曉				
【実績・成果】 (4館共通) 1) 平常展来館者数については、158,664人、展示替件数は、1,140件であり目標値を大きく上回った。 (京都国立博物館) 1) 特別展前後の準備・撤収及び「働き方改革」に則った業務内容の整理にともない、名品ギャラリー閉室期間を設けた展示計画を策定した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から2年2月27日から3月23日までを閉館とした。 2) 年度計画に基づき、1件の特別企画、6件の特集展示を実施した。									
 特別企画「京博寄託の名宝」 展示風景									
【補足事項】 ・ 特別企画「京博寄託の名宝」は、日本初となるICOM大会の開催にあわせて、特別企画の枠組みで平成知新館全館を使い、京都国立博物館が預かっている名品を展示した。展示件数139件のうち、国宝36件、重要文化財59件であり、平成26年秋の平成知新館オープン記念展「京へのいざない」、平成29年秋に開催した開館120周年記念特別展覧会「国宝」に匹敵する名品展示となった。 ・ 特集展示「赤ってじつはどんな色？」は、夏休みの自由研究にも活用できるように、美術品にみられる「赤」という色彩を実際の使用事例はもちろん素材にも言及するなどして多面的に紹介する展示とした。 ・ 特集展示「京都御所障壁画 紫宸殿」は、新天皇即位にあわせて京都御所のなかでも格式の高い紫宸殿の障壁画を展示することで、新聞雑誌などでも報道されて注目を集めた。 ・ 特集展示「子づくしー干支を愛でるー」は、新春の干支にちなんだ展示であるが、過去、当館で開催された干支展示のなかで、「子(ねずみ)」は初めての主題となった。 ・ 名品ギャラリーでも、中国近代絵画の館蔵品図版目録の刊行にあわせて掲載作品を展示するなど、時機を得た展示を行った。									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
平常展の来館者数		158,664人	130,629人	A	年	205,526	186,162	136,862	146,314
平常展の展示替件数		1,140件	919件	A	変	1,145	943	973	1,021
平常展の展示総件数		1,147件	-	-	化	1,438	1,068	978	1,038
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 当館の特色として、社寺・個人からの寄託品の割合が多いことが筆頭に挙げられるが、特別企画「京博寄託の名宝」はICOM京都大会2019にあわせて、国内外の博物館関係者及び一般来館者にそれを広く周知することができた。干支に関する展示や皇室関連の展示は開始から数年が経過し、新年を祝う華やかな企画として来館者に定着してきた。新型コロナウイルスに伴う閉館で平常展の実績にも影響はあったものの所期の目標を大きく上回る成果を挙げることができた。							
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 特別企画「京博寄託の名宝」をはじめとする特別企画や特集展示は、古の歴史のなかめであった京都に立地する当館の特色を広く周知することに貢献した。展示館が平成知新館のみで特別展の開催も春秋の2回に限られているなか、来館者の満足度を向上するためには平常展示に特別感を演出する必要がある。特に多くの学生たちの来館が見込まれる夏・冬・春休みにあわせた企画の需要は日増しに高まっており、限られた人員で効率的な運営が求められている。							



特別企画「京博寄託の名宝」
展示風景

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																											
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展																																											
【年度計画】 (4館共通) 1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (奈良国立博物館) 1) 下記のとおり各展示施設において、最新の研究成果を取り入れた名品展(平常展)を実施する。また、収蔵品の中からテーマを選んで特集展示を適宜実施する。 ・西新館 絵画、書跡、工芸、考古 ・なら仏像館 彫刻 ・青銅器館 中国古代青銅器 2) 分野の枠を超えた特別陳列を実施する。 独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実 ・「法隆寺仏像展(仮)」(7月13日～9月8日) ・「お水取り」(2年2月4日～3月22日)等																																												
担当部課	学芸部			事業責任者	部長 内藤栄																																							
【実績・成果】 (4館共通) 1) ・来館者数は、目標値(前中期計画期間の平均値)を達成した。 ・展示替件数は、目標値(前中期計画期間の平均値)の76%であった。 (奈良国立博物館) 1) 下記のとおり名品展を実施し、また特集展示を1件開催した。 ・名品展「珠玉の仏教美術」 会場：西新館 開催期間：7月13日(土)～9月23日(月・祝) 12月7日(土)～2年1月13日(月・祝) ・名品展「珠玉の仏たち」 会場：なら仏像館 開催期間：4月2日(火)～2年2月26日(水) ・名品展「中国古代青銅器」 会場：青銅器館 開催期間：4月2日(火)～2年2月26日(水) ・特集展示「新たに修理された文化財」 会場：西新館 開催期間：12月24日(火)～2年1月13日(月・祝) 2) 下記のとおり特別陳列等を開催した。 ・特別陳列「法徳寺の仏像―近代を旅した仏たち―」 会場：西新館 開催期間：7月13日(土)～9月8日(日) ・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」 会場：東新館 開催期間：同上 ・特別陳列「おん祭と春日信仰の美術 ―特集 春日大社にまつわる絵師たち―」 会場：東新館 開催期間：12月7日(土)～2年1月13日(月・祝) ・特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板―文化財写真の軌跡―」 会場：西新館 開催期間：同上 ・特別陳列「お水取り」 会場：西新館 開催期間：2年2月4日(火)～2月26日(水) ※会期は3月22日(日)までの予定であったが、感染症流行の影響で2月26日を以て閉幕した。																																												
【補足事項】 名品展「珠玉の仏教美術」(西新館)は、当初7月～9月のみの開催を予定していたが、12月にも通常の半分程度の広さではあるが会場を確保することができた。12月の開催が実現したことにより展示の機会が増え、展示替件数が昨年並みとなった。それでも目標値には達していないが、名品展の開催面積と日数が限られている現状では、妥当な件数と考えられる。 12月の名品展「珠玉の仏教美術」会場風景																																												
<table><tr><td>【定量的評価】項目</td><td>元年度実績</td><td>目標値</td><td>評価</td><td>経年変化</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr><tr><td>平常展の来館者数</td><td>160,869人</td><td>118,173人</td><td>A</td><td></td><td>95,208</td><td>145,676</td><td>135,776</td><td>140,829</td></tr><tr><td>平常展の展示替件数</td><td>239件</td><td>314件</td><td>D</td><td></td><td>286</td><td>427</td><td>210</td><td>232</td></tr><tr><td>平常展の展示総件数</td><td>461件</td><td>-</td><td>-</td><td></td><td>620</td><td>664</td><td>548</td><td>462</td></tr></table>									【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30	平常展の来館者数	160,869人	118,173人	A		95,208	145,676	135,776	140,829	平常展の展示替件数	239件	314件	D		286	427	210	232	平常展の展示総件数	461件	-	-		620	664	548	462
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30																																				
平常展の来館者数	160,869人	118,173人	A		95,208	145,676	135,776	140,829																																				
平常展の展示替件数	239件	314件	D		286	427	210	232																																				
平常展の展示総件数	461件	-	-		620	664	548	462																																				
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 来館者数は前期中期目標期間の平均値を大きく上回った。これは夏季に平常展と同時開催した、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」への入場者が多かったことが影響している。こうした新たな切り口の展示を、今後も引き続き企画し、来館者の多様なニーズに応えていく必要がある。名品展の展示替件数は、特別展開催期間が長くなっている影響で目標値を下回った。																																									
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。																																												
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 仏教美術を専門とする当館の特色を生かした内容の平常展を着実に実施できている。元年度はさらに、時宜に応じた様々なテーマの特別陳列を実施できた。平常展の来館者数は、今中期計画期間に入ってから、常に前中期計画期間の平均値を上回っており、目標を着実に達成していると言える。展示替件数は、特別展の開催期間が全般に長くなっている影響で、前中期計画期間の平均値よりは少なく推移している。現状の展示面積からみて妥当な件数であり、今後は施設の拡張など抜本的な対策を提案していきたい。																																									

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																							
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展																																							
【年度計画】 (4館共通) 1) 平常展来館者数・展示替件数について、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績の年度平均以上を目指す。 (九州国立博物館) 1) 特別展示によって、独創的なテーマ及び地域に密着したテーマで研究成果を公開する。 ・「新収品展 Part1」(3月5日～5月6日) ・「新収品展 Part2」(6月4日～7月15日) ・「館蔵名品展 更紗 生命の花咲く布」(7月30日～10月20日) ・「住友財団修復助成30年記念 文化財よ、永遠に」(9月10日～11月4日) ・「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」(10月29日～12月22日) ・「縄文王国やまなし」(10月29日～12月22日) ・「刀剣ことはじめ一刀剣ワールド財団と九博の名刀―」(令和2年1月1日～2月24日) ・「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」(令和2年1月1日～1月26日)																																								
担当部課	学芸部企画課			事業責任者	課長 白井克也																																			
【実績・成果】 (4館共通) 1) 前中期目標の実績の年度平均以上を目指して、平常展は展示替えを1,641件行い、来館者数は348,563人であった。 (九州国立博物館) 1) 計画に従って特集展示・特別公開を実施し、研究成果を公開するとともに、図録の刊行、講演会の実施等により、成果の普及を図った。																																								
【補足事項】 ・「新収品展 Part1」では、考古分野を中心とした展示を行い、「新収品展 Part2」では、その他の分野の新収品を紹介した。 ・「新元号記念特別企画 令和」(4月23日～12月22日)では、新元号の発表により太宰府が注目されるにあたり、いち早く新元号に関連する小企画を立ち上げた。オリジナルの配布資料が大変好評だった。盛況のため令和関連展示を2年度まで延長した。 ・特集展示「館蔵名品展 更紗 生命の花咲く布」では、館蔵品の更紗約 50 件を紹介し、更紗をとおしてアジアの海を媒介とした文化交流の歴史をたどる展示を行った。ワークショップは定員を上回る応募があった。会場は写真撮影可能とし、図録も発行した。 ・NHK 福岡放送と共催で「びじゅチューン！」とのコラボレーション企画の展示を行った。体験型の展示は好評で、SNS でも来館者による投稿が行われ、広報活動にもつながった。 ・特集展示「住友財団修復助成 30 年記念 文化財よ、永遠に」は、住友財団が助成を開始してから 30 年を迎えることを記念し、その助成によって修理された九州・沖縄の文化財を紹介した。熊本地震で被災した千手観音像などを通して、修理の成果や伝統の技術はもちろん、これらを守りついできた人々の思いにも焦点をあてた。会場は一部を除いて写真撮影可能とし、図録も発行した。 ・特集展示「版経東漸～対馬がつなぐ仏の教え～」では、渡来版経にスポットをあて、対馬の渡来版経だけでなく、現在は対馬島外で保管されている対馬ゆかりの渡来版経もあわせて紹介した。対馬会場、九博会場で講演会を行った。図録も発行した。 ・特集展示「縄文王国やまなし」では、釈迦堂遺跡を中心に山梨県から出土した土器や土偶等を紹介し、会場は写真撮影可能とした。図録は図書として刊行した。 ・特集展示「刀剣ことはじめ一刀剣ワールド財団と九博の名刀―」では、刀剣ワールド財団の全面的なご協力をいただき、九州初展示の名刀を近年当館の所蔵となった刀剣とともに紹介した。作品の見どころや来歴などを紹介するだけでなく、用語についても分かりやすい解説に努めた。会場は写真撮影可能とした。また、無料リーフレットを作成し、会場内で配布した。 ・新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」では、徳川三代将軍家光の長女の婚礼調度である「初音の調度」から、国宝3点(「初音蒔絵乱箱」、「初音蒔絵長文箱」、「初音蒔絵短冊箱」)を展示した。また、同じ『源氏物語』をモチーフとした絵画や、盛岡藩主南部家ゆかりの婚礼調度もあわせて紹介した。 ・「第44棋聖戦第4局開催記念：囲碁にみる日本とアジアの交流」(2年2月11日～2月26日)では、第44期棋聖戦第4局の開催が決定したことを受け、囲碁に関連する小企画を立ち上げた。																																								
【定量的評価】項目 <table><tr><td>元年度実績</td><td>目標値</td><td>評定</td><td>経年変化</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td></tr><tr><td>平常展の来館者数</td><td>348,563人</td><td>387,744人</td><td>C</td><td>412,621</td><td>393,590</td><td>350,848</td><td>349,114</td></tr><tr><td>平常展の展示替件数</td><td>1,641件</td><td>1,253件</td><td>A</td><td>1,513</td><td>1,654</td><td>1,594</td><td>1,779</td></tr><tr><td>平常展の展示総件数</td><td>1,894件</td><td>-</td><td>-</td><td>2,628</td><td>2,208</td><td>1,894</td><td>1,995</td></tr></table>									元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30	平常展の来館者数	348,563人	387,744人	C	412,621	393,590	350,848	349,114	平常展の展示替件数	1,641件	1,253件	A	1,513	1,654	1,594	1,779	平常展の展示総件数	1,894件	-	-	2,628	2,208	1,894	1,995
元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30																																	
平常展の来館者数	348,563人	387,744人	C	412,621	393,590	350,848	349,114																																	
平常展の展示替件数	1,641件	1,253件	A	1,513	1,654	1,594	1,779																																	
平常展の展示総件数	1,894件	-	-	2,628	2,208	1,894	1,995																																	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 計画に従って多様な特集展示を行ったほか、新元号にちなんだ特集や、棋聖戦開催記念の展示など、時宜に合った展示を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策による臨時休館のため、来館者数の増加にはつながらなかった。																																					
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組む、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。																																								
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 中期計画に従い、順調に特集展示等を開催した。2年度は開館15周年にあたり、記念特集展示や、開館以来実施してきた太宰府天満宮と連携した研究の成果を発信する特集展示を計画している。元年度同様、来館者数、満足度の向上に寄与するよう取り組んでいきたい。																																					

【博物館】

施設名

4 館

処理番号

1212ABCD

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ① 平常展								
【年度計画】 (4館共通) 2) 満足度調査等を実施し、その結果を展示内容等の改善に活かす。									
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部企画課			事業責任者	課長 救仁郷秀明 企画室長 山川暁 課長 臣守常勝 課長 白井克也				
【実績・成果】 (東京国立博物館) ・総合文化展のアンケートを実施し、集計結果を基に観覧環境の改善に努めた。また、記述式要望書やウェブサイトの意見欄の内容を確認し、来館者からの意見、要望については外部委託業者を含めた館内全体で共有、改善に努めるとともに、回答が必要なものについては速やかに担当部署に確認し、なるべく早い回答を心掛けた。 (京都国立博物館) ・新天皇即位にあわせて、京都御所の障壁画を特集展示にて陳列。来館者に関心の高いテーマを積極的に取り上げた。 ・ウェブサイトにある名品ギャラリーの展示内容(タイトル、作品リスト)の告知時期を早め、来館を考えている方々へのサービス向上を図った。 (奈良国立博物館) ・館内の2か所に常時アンケート記入場所を設け、記述式アンケートを通年で実施した。アンケート結果は集計作業を行った後、関係部署で共有し、改善に努めた。また、ウェブサイトを通じて寄せられた当館へのご意見・ご要望等についても、同様に情報を共有し、改善に努めた。 (九州国立博物館) ・元年度も館内に平常展アンケート記入場所を設置した。アンケート・ウェブサイト・口頭などで来館者から寄せられた意見は館内で共有し、必要に応じて回答や改善などの対応を行った。									
【補足事項】 (東京国立博物館) アンケート結果については、30年度を上回る満足度を得ることができた。今後は、アンケート回収率を上げるために、アンケート記入場所についても検討を重ねる。 (京都国立博物館) ウェブサイトでは、現在開催中の展示を紹介するページへのアクセスを簡便にした。 (奈良国立博物館) 来館者からの要望に応え、青銅器館での写真撮影を可能とした。 (九州国立博物館) 特集展示ごとに、立て看板や特大バナーをエントランスに設置するなど、開催中の展示内容、開催場所等が一目でわかるように工夫した。									
【定量的評価】 項目		元年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	27	28	29	30
平常展の来館者アンケート満足度									
東京国立博物館		90.2%	74%	B		82	71.0	87.3	89.2
京都国立博物館		79.1%	79%	B		83	75.0	84.4	89.7
奈良国立博物館		93.2%	79%	B		78	88.9	90.1	92.5
九州国立博物館		77.1%	67%	B		72	73.8	77.8	73.6
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 総合文化展のアンケートについては、一部の館は目標値を大幅に上回る満足度を得ることができた。引き続き、アンケートやウェブサイトを通じて寄せられる来館者の意見を分析・共有し、展示内容や解説の改善をはじめとするフィードバックを行うことで、満足度の向上を目指したい。また、今後はアンケート記入場所など、それぞれの館で回収率を上げるための方策も引き続き検討する。							
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者数、展示替件数及び来館者アンケートの満足度については、各施設の工事等による影響を勘案し、前中期目標の期間の実績以上を目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 30年度に引き続き、来館者アンケート満足度は前中期目標の期間の実績以上を達成できた。2年度以降も来館者による意見などを通じて、引き続きさらなる満足度の向上を目指し取り組んでいく。							

【書式A】

施設名

4 館

処理番号

1220 7 ABCD

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展								
【年度計画】 (4館共通) ア 中期計画で定めた開催回数の達成を目指す。									
担当部課	東京国立博物館学芸企画部 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館学芸部 九州国立博物館学芸部			事業責任者	部長 富田淳 企画室長 山川暁 部長 内藤栄 部長 小泉恵英				
【実績・成果】 (東京国立博物館) 特別展を8回開催した。内訳：当館開催8回。 (京都国立博物館) 特別展を2回開催した。 (奈良国立博物館) 特別展を3回開催した。 (九州国立博物館) 特別展を4回開催した。									
【補足事項】 (東京国立博物館) 開催した特別展は以下の通り。 特別展 御即位30年記念「両陛下と文化交流 日本美を伝える」、特別展「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅」、特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品 雪舟、永徳から光琳、北斎まで」、日中文化交流協定締結40周年特別展「三国志」、特別展「人、神、自然—アール・サーニ コレクションの名品が語る古代の世界—」、特別展「正倉院の世界—皇室が守り伝えた美—」、日本書紀成立1300年記念特別展「出雲と大和」、特別公開「高御座と御帳台」 (京都国立博物館) 開催した特別展は以下の通り。 時宗二祖上人七百年御遠忌記念特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」、特別展「流転 100 年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」 後者では、佐竹本三十六歌仙絵各幅に茶室風のバックパネルを設けて典雅な王朝の美の空間を演出した。 (奈良国立博物館) 開催した特別展は以下のとおり。 特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」、「御即位記念 第71回正倉院展」、特別展「毘沙門天—北方鎮護のカミ—」 (九州国立博物館) 開催した特別展は以下のとおり。 特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」、特別展「室町將軍—戦乱と美の室町十五代—」、日中文化交流協定締結40周年記念 特別展「三国志」、特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華 大様式の形成と変容」									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	27	28	29	30
特別展の開催回数（海外展含む）									
東京国立博物館		8回	年3～4回	A		6	13	7	9
京都国立博物館		2回	年1～2回	B		2	2	2	2
奈良国立博物館		3回	年2～3回	B		3	4	3	3
九州国立博物館		4回	年2～3回	A		5	4	5	4
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 4館とも目標値を上回る回数の特別展を実施した。また、時機に適った企画や地域文化に深く関わる展示内容を展開する等、質的にも我が国の中核拠点にふさわしい事業を展開した。							
【中期計画記載事項】 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 (東京国立博物館) 年 3～4 回程度 (京都国立博物館) 年 1～2 回程度 (奈良国立博物館) 年 2～3 回程度 (九州国立博物館) 年 2～3 回程度									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 国内外の博物館と連携した質の高い特別展を開催し、順調に中期計画を進めることができた。2年度以降も、国民に話題を提供する契機となる企画を行い、展覧会の質の高さを保ちながら目標を上回る特別展を開催する。							

※東京国立博物館で開催のユネスコ無形文化遺産「体感！日本の伝統芸能 —歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—」は、会期が2年3月10日～5月24日のため2年度の実績とする。

※東京国立博物館で開催の特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」は、会期が2年3月14日～5月10日のため2年度の実績とする。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信										
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展										
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査等を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。											
担当部課	総務部総務課 学芸企画部企画課			事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 浅見龍介						
【実績・成果】 (4館共通) 各特別展において、タッチパネルアンケートまたは記述式アンケートを実施し、来館者の要望を把握し、共催者や外部委託業者を含めて関係者全体で共有し、来館者のご意見・ご要望を次回の特別展に反映する取り組みを行っている。アンケート調査の結果は、当館のウェブサイトにおいて公開すると共に、質問、意見等を提出された来館者には回答を行っている。											
【補足事項】 外国人来館者に対する解説を充実するため、外国語の音声ガイド(英語・中国語・韓国語)を30年度に引き続き作成し、特別展の満足度向上を図った。また、同じく外国人来館が増えた特別展では、30年度制作した保護者向け、子供向けの注意事項を4言語で作成し、配布するなどマナーの向上にも努めた。											
【定量的評価】項目				元年度実績	目標値	評価		27	28	29	30
特別展の来館者アンケート満足度				86.6%	71%		経 年 変 化	75	87.9	86.4	84.2
両陛下と文化交流 日本美を伝える				88.3%	-	-		-	-	-	-
東寺-空海と仏像曼荼羅				81.0%	-	-		-	-	-	-
美を紡ぐ 日本美術の名品				89.4%	-	-		-	-	-	-
三国志				85.1%	-	-		-	-	-	-
正倉院の世界				85.1%	-	-		-	-	-	-
アール・サーニ コレクション				91.6%	-	-		-	-	-	-
出雲と大和				85.9%	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：A				【判定根拠、課題と対応】 混雑する特別展が多い中、年間を通じて高い満足度を達成することができた。また、質問・要望に対して、迅速かつ丁寧な回答及び館内共有に努めた。なお、東寺展では、アンケート機材のトラブルによって、データを集計することが出来なかったため、自由記載の意見を基に来館者からの評価を分析し、今後の運営に反映することとした。							
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。											
【中期計画に対する評価】 評価：B				【判定根拠、課題と対応】 元年度も目標値を超える満足度を得ることができた。引き続きアンケート結果を館内で共有し、観覧環境も含めより良い展覧会の実現に努める。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展								
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査を実施するなど広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。									
担当部課	総務課 学芸部			事業責任者	課長 西尾佐枝子 企画室長 山川暁				
【実績・成果】 (4館共通) イ ○特別展共通の対策 ・監視スタッフは平常展と同じ陣容で対応しているが、特別展に向けて業務内容などを確認するため説明会を開催した。 ・テレビ番組で展覧会が紹介された後など観覧者の急増した場合に、公式ツイッターなどで混雑状況を随時配信した。 ○特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」での対策 ・展示の核となる「国宝 一遍聖絵」が展示替えによって観覧できない状況を補うため、摸本をあわせて展示し、観覧者に不都合が生じないように配慮した。 ・絵巻の展示が多く、展示品の前に滞留する観覧者が多くなるため、絵巻に関する説明の一部を展示室中央に立てた仮設の柱に掲出して、混雑緩和に努めた。 ○特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」での対策 ・展覧会初日にあたる10月12日は台風19号上陸に備えて臨時休館とし、観覧予定者の安全確保を優先した。代わりに会期後半の11月18日に臨時開館し、ホームページなどでの告知に努めた結果、総入場者数は約3,000人となった。 ・開館前に待ち列ができることが多く、200名を超えることもあった。そのため、状況に応じて、柵を設置し庭園内への列を引き入れや、平成知新館グランドロビーに新たに待ち列を作るなどの対応を行った。 ・2階に佐竹本をまとめて展示していたことから、観覧者が集中して滞留ができる箇所もあったが、監視スタッフの声掛けにより自由導線での観覧を促した。 ・図録の販売が好調で、会期後半には品切れ状態となった。展覧会場販売分については、主催者送料負担での後日配送を行うなど臨機応変に対応した。 ・特別講演会聴講のための整理券取得の待ち列の横でトラりんがパフォーマンスを繰り広げるなど、待ち時間の不満解消に努めた。 ・SNSが普及するなかで展示室での撮影に対する要望が多いため、展示室のそばに記念撮影用の顔出しパネルを用意した。									
					 顔出しパネルと冠を戴いたトラりん				
【補足事項】 ・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」図録については、展覧会に来られない方からの通信販売の問い合わせも多かったことから、展覧会終了後の通販申し込みに対応できるように共催者に申し入れ、一定数の通販分を確保するなど、非来館者への配慮も心掛けた。									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
特別展の来館者アンケート満足度		80.6%	89%	C	年	87	78.1	81.9	94.6
一遍聖絵		70.2%	-	-	変	-	-	91.3	90.2
三十六歌仙		72.9%	-	-	化	-	-	78.3	97.7
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 春秋の2つの特別展どちらも平常展示館である平成知新館を特別展会場として使用しており、観覧導線の制約などが満足度低下の主な理由であると考えられる。そのなかで、日々集計されるアンケートに両部署の担当者がそれぞれ目を通し、上記の補足事項をはじめ改善すべき点はすみやかに対策を施した。水分摂取可能区域の拡大などの30年度に改善した項目は元年度も引き続き実施し、来館者の要望に応じた柔軟な対応を心掛けており、十分な成果を上げている。							
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 30年度に引き続き、会場内外での混雑緩和に努め、工夫をこらした。中期計画での4年目にあたり、これまでの積み重ねに加えて細かな改良を継続している。日々集計されるアンケートの内容はもちろん、監視スタッフから報告される日報に記載されている観覧者対応の事例もふまえて、引き続き観覧者の満足度向上に向けた努力を重ねており、目標達成に向けて順調に推移している。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展							
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。								
担当部課	総務課			事業責任者	課長 臣守常勝			
【実績・成果】 (4館共通) ・館内で実施した記述式アンケート及び対面アンケートの集計結果、並びにウェブサイトを通じて寄せられたご意見等を関係部署で共有し、改善に努めた。 ・わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」、特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」及び特別陳列「重要文化財 法隆寺金堂壁画写真ガラス原板—文化財写真の軌跡—」、特別陳列「お水取り」及び特別展「毘沙門天—北方鎮護のカミ—」会期中には、ボランティアによる対面アンケートを実施し、アンケート回収率を上げるとともに、幅広い層の意見を得ることができた。 ・展覧会毎に監視要員に向けた説明会を開催し、接遇の基本、業務内容、配置場所、留意事項、会期中のイベント、販売券種及び割引対象等に関する理解を含め、適切な来館者対応が行えるよう努めた。								
【補足事項】 ・外部資金が得られたため、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」会期中に中国語の記述式アンケートを実施し、近年急増している中国人観光客の意見をより多く集められるよう工夫した。 ・正倉院展において、従前より荷物の持ち込みによる展示室内の混雑が問題になっていたことから、基準より大きな荷物の持ち込みを制限するとともにコインロッカー・手荷物預かり所の利用を促進し、混雑緩和に努めた。								
								
コインロッカー・手荷物預かり所利用促進看板			「御即位記念 第71回正倉院展」手荷物持ち込み制限看板			わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」対面アンケートの様子		
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
特別展の来館者アンケート満足度	91.4%	80%	B		79	86.4	88.1	89.8
藤田美術館展	89.3%	－	－		－	－	－	－
第71回正倉院展	87.4%	－	－		－	－	－	－
毘沙門天	97.5%	－	－		－	－	－	－
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ボランティアによる対面アンケートを複数回にわたって実施し、直接来館者の声を聞くとともにアンケート回収率の向上に努めた。寄せられた意見・要望については、関係部署で内容を検討した上、改善に努めた。						
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 元年度に開催した特別展における来館者満足度は、30年度に引き続き前中期目標の期間の実績以上の数値となった。2年度以降も引き続き対面アンケートを行い、来館者の意見を参考にしつつ改善に努め、満足度の向上を目指す。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展							
【年度計画】 (4館共通) イ 満足度調査を実施する等広く意見を求め、満足度の高い特別展となるよう努める。								
担当部課	学芸部企画課			事業責任者	課長 白井克也			
【実績・成果】 (4館共通) 元年度に実施した特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」、「室町将軍 戦乱と美の足利十五代」、「三国志」、「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華」について、来場者を対象に満足度調査を実施した。各特別展において、目標値に近い満足度を得ることができた。 特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」では、秘仏である本尊が安置されたお堂の景観を展示室内に再現した。また、六観音像について来場者による写真撮影を可能にしたことなどが好評であった。 特別展「室町将軍—戦乱と美の足利十五代—」では、所蔵者である等持院以外では初となる、将軍像13軀の同時公開を実現した。座敷飾りの再現など、室町時代が現在の日本文化の形成に大きく寄与したことを、視覚的に表現した。また、勘合貿易に用いた勘合を最新の研究成果に基づいて再現し、来館者が手にとって体験できるように工夫したことなどが、高い評価につながった。 特別展「三国志」では、日本でも人気の高い『三国志』のエピソードに沿った展示、さらには曹操高陵の再現などの工夫により、多くの三国志ファンに展示を楽しんでいただくことができた。 特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華 大様式の形成と変容」では、17世紀から19世紀のフランス絵画の名品が一堂に会すとともに、宝塚歌劇団の「ベルサイユのばら」衣装の展示など、観客に親しんでいただける工夫をした。								
【補足事項】  特別展「室町将軍—戦乱と美の足利十五代—」 歴代将軍像（等持院所蔵）の展示風景								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
特別展の来館者アンケート満足度	84.0%	86%	C		88	85.9	87.2	86.7
京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ	84.6%	-	-		-	-	-	-
室町将軍	87.9%	-	-		-	-	-	-
三国志	78.0%	-	-		-	-	-	-
フランス絵画の精華	85.4%	-	-		-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評価：C	【判定根拠、課題と対応】 各展覧会でおおむね目標値に近い満足度を得ることができた。特に「室町将軍」展について、当館で単独開催ならではの工夫と品揃えで臨み、全国からの来館者を迎え、高い満足度を達成した。ただし、ほか3件の特別展については、わずかに目標に達しなかったため、全体の満足度を下げる結果となった。「室町将軍」の成功を分析することによって今後の特別展企画の参考としたい。							
【中期計画記載事項】 特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については前中期目標の期間の実績以上を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 特別展は高い満足度を維持している。今後も特別展来館者アンケートを継続実施して来館者の反応を把握するとともに、アンケート結果を分析して満足度の更なる向上に努めたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】			
ア 特別展 御即位30年記念「両陛下と文化交流 日本美を伝える」(3月5日～4月29日) (目標来館者数5万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部博物館情報課長 今井敦
【実績】			
展覧会名	特別展 御即位30年記念「両陛下と文化交流—日本美を伝える—」		
会 期	3月5日(火)～4月29日(月)(50日間)		
会 場	東京国立博物館 本館特別4・5室		
主 催	東京国立博物館、文化庁、読売新聞社		
作品件数	18件		
来館者数	122,764人(達成率:245.5%)		
入場料金	一般1,100円、大学生700円、高校生400円、中学生以下無料		
アンケート結果	満足度88.3%		
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知ポスター			
告知			

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】				
ア 特別展「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅」(3月26日～6月2日) (目標来館者数20万人)				
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部広報室長 丸山士郎	
【実績】				
展覧会名	特別展「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅」			
会 期	3月26日(火)～6月2日(日)(62日間)			
会 場	東京国立博物館 平成館			
主 催	東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション			
作品件数	110件			
来館者数	463,991人(達成率232%)			
入場料金	一般1600円(1400円／1300円)、大学生1200円(1000円／900円)、高校生900円(700円／600円)、中学生以下無料			
アンケート結果	満足度 81%			
告知ポスター				
【成果】				
企画構成 展示作品	東寺(教王護国寺)は、平安京遷都に伴って、王城鎮護の官寺として西寺とともに建立され、中国から密教を持ち帰った空海がその根本道場とした。密教は造形作品を重視することから東寺にも多くの優れた文化財が伝わる。本展では、講堂安置の21体の仏像からなる立体曼荼羅のうち、史上最多となる国宝11体、重文4体、合計15体を出品したほか、彫刻、絵画、書跡、工芸など密教美術の最高峰を展示した。			
学術的意義	密教の理解には造形作品が不可欠であるという空海の考えにしたがって東寺には優れた作品が多く、密教美術の重要作品を紹介することができた。会期前、会期中に出品作品の写真撮影、CT撮影、X線撮影を実施し、今後の研究資料の作成も行うことができた。			
教育普及	・記念公演「真言声明 一東寺の音と共に」を4月10日に2回、4月17日に2回開催し、参加者合計1505人であった。 ・記念講演会「東寺の歴史と真言密教の至宝」を4月27日に開催し、参加者372人であった。 ・記念講演会「東寺と仏像曼荼羅」を5月11日に開催し、参加者380人であった。 ・ジュニアガイドを編集し、90,000部を刊行した。 ・ボランティアを対象とした解説会を4月23日に行い、参加者数80人であった。			
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：3月25日実施 141媒体、241人出席。ポスター、チラシ各種制作。JR駅大型ボード、JR山手線マルチビジョン、京王タイアップ広告などを出稿。新聞：読売新聞ほか、雑誌：一個人、宝島社MOOK、サライ、Discover Japan、芸術新潮ほか、テレビ：BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」ほか、NHK「日曜美術館」本編、NHK「運慶特集」、フジテレビ「1hセンス」、BS日テレ「ぶらぶら美術博物館」、J-WAVE「GOOD NEIGHBORS」、FMヨコハマ「Lovely Day」ほか。また、展覧会公式サイトなどで広報を実施した。なお、東寺講堂での搬出と当館での展示の様子を早回しで紹介する「タイムラプス動画」をSNSで配信するなど多様な広報活動を行った。			
補 足	 展示風景			
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価
来館者数		463,991人	200,000人	S
【年度計画に対する総合評価】 評価：S		【判定根拠、課題と対応】 空海が真言宗の根本道場とした東寺の密教美術の全容を紹介することができ、目標を大きく上回る来館者があった。出品作品について写真撮影、CT撮影、X線撮影を実施し、研究資料の充実を図った。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展			
【年度計画】 ア 特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品 雪舟、永徳から光琳、北斎まで」(5月3日～6月2日) (目標来館者数5万人)				
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部博物館情報課長 今井敦	
【実績】				
展覧会名	特別展「美を紡ぐ 日本美術の名品 雪舟、永徳から光琳、北斎まで」			
会 期	5月3日(金)～6月2日(日)(27日間)			
会 場	東京国立博物館 本館特別5室・特別4室・特別2室・特別1室			
主 催	東京国立博物館、文化庁、読売新聞社			
作品件数	37件			
来館者数	106,593人(達成率213.2%)			
入場料金	一般1,100円(1,000円)、大学生700円(600円)、高校生400円(300円) 中学生以下無料			
アンケート結果	満足度89.4%			
告知ポスター				
【成果】				
企画構成 展示作品	「日本美を守り伝える『紡ぐプロジェクト』—皇室の至宝・国宝プロジェクト—」の一環として開催した特別展であり、皇室ゆかりの名品である狩野永徳筆「唐獅子図屏風」と、永徳最晩年の作である国宝「檜図屏風」を、同時公開するのに加えて、雪舟、尾形光琳、葛飾北斎らの名品を一堂に紹介した。			
学術的意義	日本美術史を彩る、平安時代から近代の名だたる日本美術の名品を一堂に紹介することにより、日本美術の真価を再認識していただいたとともに、文化財を後世に守り伝えるための課題と、それを解決するための取り組みについて、啓蒙することができた。			
教育普及	—			
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：5月8日実施 95媒体、114人出席。ポスター、チラシ各種制作。JR駅大型ボード、東京メトロボード、京王タイアップ広告などを出稿。新聞：読売新聞ほか、雑誌：『美術の窓』1月号、『時空旅人』3月号、「BRUTUS」3月号ほか、テレビ：テレビ朝日「ワイドスクランブル」、日本テレビ「深層NEWS」、インターネットメディア：「美術手帖」、「レッツエンジョイ東京」など。ほか展覧会公式サイトなどで広報を実施。			
補 足	 			
	会場風景1 会場風景2			
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価
来館者数		106,593人	50,000人	S
【年度計画に対する総合評価】 評価：S		【判定根拠、課題と対応】 宮内庁と当館が所蔵する日本美術の名品を通じて、日本美術の粋に触れることのできる希少な機会であり、目標人数を大きく上回る来場者を得られ、年度計画における目標を達成することができた。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
ア 日中文化交流協定締結40周年特別展「三国志」(7月9日～9月16日) (目標来館者数12万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課東洋室 市元壘
【実績】			
展覧会名	日中文化交流協定締結40周年特別展「三国志」		
会 期	7月9日(火)～9月16日(月)(62日間)		
会 場	東京国立博物館 平成館		
主 催	東京国立博物館、中国文物交流中心、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社		
作品件数	162件		
来館者数	337,639人(達成率281.4%)		
入場料金	一般1,600円(1,300円), 大学生1,200(900円), 高校生900(600円)		
アンケート結果	満足度85.1%		
告知ポスター			
			
【成果】			
企画構成 展示作品	中国国内18の直轄市・省・自治区から三国志ゆかりの文物を集めた大型展。プロローグで後世に語り継がれた物語性の強い三国志の世界を紹介し、続く第1章～第5章、エピローグにかけて漢時代から西晋時代の出土文物により三国志の時代の実像を明らかにする。三国志の時代の出土文物を中心とする展覧会は本邦初であり、中国においても前例がない。		
学術的意義	曹操の墓と副葬品について考古学的に再検証し、後漢から三国時代にかけての埋葬制度の中での位置づけを明らかにした。また、中国東北部に割拠した公孫氏や南部の士燮ゆかりの文物を通して、三国志の時代の複雑な社会構造を浮き彫りにした。特に公孫氏関連の文物では日本列島とのつながりを明らかにした。		
教育普及	・学校教員を対象とした教員研修を行い、参加者242人であった(総合文化展教員研修と合同開催) ・記念講演会「リアル三国志の世界」を7月13日に開催し、参加者数353人であった。 ・記念講演会「三国志から見た邪馬台国」を7月27日に開催し、参加者数384人であった。 ・ジュニアガイドを編集し、200,000部を刊行した。 ・ボランティアを対象とした解説会を7月17日に行い、参加者数115人であった。		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会:7月8日(月)実施157媒体、246人出席。ポスター、チラシ各種制作。JR山手線まど上チャネル、JR山手線B3まど上ポスター、私鉄5社フレコミボード、東急、小田急、京王、相鉄、京急の43駅など出稿。新聞:読売新聞、朝日新聞など、雑誌:日経おとなのOFF、美術の窓、JTB Style、時空旅人、ユリイカ、「宝島社ムック『史実 三国志』」など、テレビ:NHKBSプレミアム「三国志 特集番組」、NHKEテレ「日曜美術館 アートシーン」、NHK総合「歴史秘話 ヒストリア」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館ほか。ほか、展覧会公式ウェブサイトやニコニコ生放送などにおける広報を実施した。		
補 足			
	再現展示「曹操高陵」 実寸再現により当時の埋葬空間を理解		
【定量的評価】項目			
来館者数	元年度実績	目標値	評価
	337,639人	120,000人	S
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】	
評価:S		三国志の時代の考古資料を展示するだけでなく、人形劇三国志、横山光輝漫画、吉川英治小説、コーエーテクモゲームス等とのコラボレーションを積極的に推進したことで、予備知識の有無に関わらず多くの来場者が三国志に対する理解を深めることができた。	



告知ポスター

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展			
【年度計画】				
ア 特別展「正倉院の世界—皇室が守り伝えた美—」(10月14日～11月24日) (目標来館者数20万人)				
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課長 浅見龍介	
【実績】				
展覧会名	特別展「正倉院の世界—皇室が守り伝えた美—」			
会 期	10月14日(月)～11月24日(日)(37日間)			
会 場	東京国立博物館・平成館			
主 催	東京国立博物館、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション			
作品件数	116件(うち、正倉院宝物46件、国宝6件、重要文化財14件)			
来館者数	362,076人(達成率181.0%)			
入場料金	一般1,700円、大学生1,100円、高校生700円			
アンケート結果	満足度85.1%			
告知ポスター				
【成果】				
企画構成 展示作品	本展は、天皇の勅封によって嚴重にまもられてきた正倉院宝物を中心に、当館が所蔵する法隆寺献納宝物などを合わせて展示し、古代の日本の国際色豊かな文化を紹介する展覧会である。また、本展では明治時代以降の正倉院宝物に関する保存・修理・調査・復元模造などの活動についても光を当て、正倉院宝物が現代までまもり伝えられてきた様子を紹介する。			
学術的意義	正倉院宝物は、光明皇后が聖武天皇の御遺愛品をはじめとする品々を東大寺大仏に捧げたことに由来し、その内容は当時のアジア大陸の面影を留めていることから、世界的にも比類のない文化財として知られている。一方、法隆寺献納宝物は、明治時代に法隆寺から皇室に献納された品々で、その内容は飛鳥・奈良時代の美術を代表するものである。両宝物は古代アジアにおける人々や文化の交流の実態を示す世界的に貴重な文化財であり、これらを同時公開することは、古代の日本文化がもっていた国際性に対する理解を一層深める絶好の機会となる。			
教育普及	・記念講演会「正倉院をまもる」を10月20日に開催し、参加者数364人であった。 ・記念講演会「正倉院宝物研究の最前線」を11月17日に開催し、参加者数347人であった。 ・ジュニアガイドを編集し、50,000部を刊行した。			
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：10月13日実施111媒体、176人出席。ポスター、チラシ各種制作。JR駅大型ボード、JR山手線マルチビジョン、京王タイアップ、広告列車貸切りなど出稿。新聞：読売新聞ほか、雑誌：ノジュール、ディスカバリージャパン、pen、皇室ほか、テレビ：BS日テレ「読売テレビ開局60年 正倉院の奇跡～守り継がれた天皇の倉」(10/19放送)、NHK総合 NHKスペシャル「天皇が創った至宝～正倉院宝物が伝える日本誕生～」(10/30放送)、NHK Eテレ「日曜美術館 アートシーン」ほか。また、展覧会公式サイトなどで広報を実施した。			
補 足	  展示会場風景 正倉院南倉の実物大再現			
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価
来館者数		362,076人	200,000人	S
【年度計画に対する総合評価】 評価：S		【判定根拠、課題と対応】 正倉院宝物と法隆寺献納宝物という古代アジアの交流の実態を示す世界的に貴重な文化財を同時公開することや、正倉院宝物に関する保存・修理・調査・復元模造などの活動について紹介することにより、目標人数を大きく上回る来場者を得られ、年度計画における目標を達成することができた。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展			
【年度計画】				
ア 日本書紀成立1300年記念特別展「出雲と大和」(2年1月15日～3月8日) (目標来館者数15万人)				
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部調査研究課考古室長 品川欣也	
【実績】				
展覧会名	日本書紀成立1300年記念特別展「出雲と大和」			
会 期	2年1月15日(水)～2月26日(水)(37日間)			
会 場	東京国立博物館 平成館			
主 催	東京国立博物館、奈良県、島根県、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社			
作品件数	174件(うち、国宝23件、重要文化財75件)			
来館者数	136,054人(達成率123.7%)			
入場料金	一般1600円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料			
アンケート結果	満足度85.9%			
【成果】				
企画構成 展示作品	日本書紀編纂1300年を記念して島根県・奈良県・東博が共同で開催する特別展。国譲り神話で重要な役割を果たした島根県と奈良県ゆかりの名品を通して、古代日本成立の背景や特質を紹介した。 本展のきっかけとなった日本書紀をはじめ、古代史を語る上で欠くことのできない荒神谷遺跡出土の銅剣・銅矛・銅鐸や石上神宮に伝わる七支刀などを展示した。			
学術的意義	「令和」を迎え、またオリンピックやパラリンピックを間近に控え、世界各地から日本に関心が高まる中、日本の古代史を考える上で重要な史資料や作品を展示することで広く一般に紹介することができた。			
教育普及	・学校教員を対象とした教員研修を行い、参加者307人であった。 ・記念公演「雅楽・石見神楽」を1月15日に2回開催し、参加者741人。 ・記念講演会「古代の出雲と大和ー『日本書紀』成立1300年」を1月18日に開催し、参加者数391人。 ・連続講座「出雲と大和」を1月24日、25日に開催し、参加者645人。 ・ジュニアガイドを編集し、50,000部刊行。 ・ボランティアを対象とした解説会を1月28日に行い、参加者数100人であった。			
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：2年1月14日実施 231人出席。ポスター、チラシ各種制作。JR NTボード(87駅94面)、ADビジョン東京駅セット(89面)、東京メトロ Uボードゴールド(17駅20面)、臨時集中張(1駅3面)、電飾看板(1駅1面)、私鉄(メトロ)フレコミボード(43駅43面)。ドアヨコ(B3 450枚)、新聞：読売新聞ほか、雑誌：時空旅人、美術の窓、一個人、IMPRESSION GOLD、芸術新潮、医師協MATE、はれ予報、日経おとなのOFF、和楽ほか、テレビ：BS日テレ「ぶらぶら美術博物館」ほか。また、展覧会公式サイトなどで広報を実施した。			
補 足	  第1室 宇豆柱第3室 七支刀			
【定量的評価】項目				
	元年度実績	目標値	評価	
来館者数	136,054人	150,000人 (110,000人) ※1	B	
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 当館だけではなく、島根県と奈良県と共同で特別展を行うことで、本展の出品作品の充実と展示内容の嵩上げを図ることができただけでなく、両県の魅力の再発見や文化資源の掘り起こしにつなげられた。コロナウィルスの感染拡大に伴う来館者減、その後感染防止のための閉館対応のため実質的な会期は10日減となった。		

※1 括弧内の目標値は、会期変更にもなう目標値の見直しによる値。

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展			
【年度計画】 ケ 特別公開「高御座と御帳台」(12月22日(日)～2年1月19日(日))				
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課特別展室長 猪熊兼樹	
【実績】		 告知ポスター		
展覧会名	特別公開「高御座と御帳台」			
会 期	12月22日(日)～2年1月19日(日)(19日間)			
会 場	東京国立博物館 本館特別4室・特別5室			
主 催	東京国立博物館、内閣府、宮内庁			
作品件数	5件			
来館者数	204,801人(達成率一%)			
入場料金	総合文化展観覧料			
アンケート結果	満足度一%			
【成果】				
企画構成 展示作品	10月22日、天皇陛下が即位を公に宣明されるとともに、その即位を内外の代表がことほぐ儀式として、皇居の宮殿において、即位礼正殿の儀が行われた。この度の特別公開では、即位礼正殿の儀で用いられた高御座・御帳台と威儀物を一般参観に供するとともに、即位の礼の諸儀式の写真と、装束姿を再現する人形を展示した。			
学術的意義	即位の儀式は、平安時代初期に確立され、以来、今日まで行われるようになった。儀式の行われる場所については、大極殿、太政官庁、紫宸殿といった変遷があり、大正・昭和の両度の即位の儀式は、京都御所の紫宸殿に天皇の御座の高御座を、その東方に皇后の御座の御帳台を置いて挙行された。平成度の即位の儀式は、皇居・宮殿の正殿に高御座と御帳台を置いて挙行され、令和度の即位の儀式もそれを踏襲して行われた。			
教育普及	・公開内容の理解を促す無料配布のリーフレットを編集し、400,000部を刊行した。			
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：12月21日実施 25人出席。ポスター、チラシ各種制作。テレビ：NHK、日本テレビ、TBS、フジテレビ等のニュースで報道。日本テレビ「皇室日記」。ほか当館ウェブサイトで広報。 ・無料公開とした。 ・展示室の入場前に「ウォークスルー型」の探知機による危険物探知を実施した。			
補 足	 高御座・御帳台の展示  威儀物・装束の展示			
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	
来館者数	204,801人	一人	一	
【年度計画に対する総合評価】 評価：S		【判定根拠、課題と対応】 20日間で204,801人の参観者があった。内閣府・宮内庁と緊密に連携して、綿密な展示計画を作成し、周到に会場設営の準備を行い、運営方法に関する協議を重ねたことにより、多数の来場者の安全に配慮しながら効果的な公開を行うことができた。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】 (京都国立博物館) ア 特別展「時宗二祖上人七百年御遠忌記念 国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」(4月13日～6月9日) (目標来館者数7万人)(51日間)				
担当部課	学芸部	事業責任者	連携協力室長 浅湊毅	
【実績】				
展覧会名	時宗二祖上人七百年御遠忌記念特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」			
会 期	4月13日(土)～6月9日(日)(51日間)			
会 場	京都国立博物館平成知新館			
主 催	京都国立博物館、朝日新聞社、時宗、時宗総本山清浄光寺			
作品件数	132件(うち国宝3件、重要文化財34件)			
来館者数	66,678人(達成率:95.2%)			
入場料金	一般 1,500円、大学生 1,200円、高校生 900円			
アンケート結果	満足度 70.2%			
告知ポスター				
【成果】				
企画構成 展示作品	本展覧会は次の5章から構成された。 1章 浄土教から時宗へ 2章 時宗の教え 一遍から真教へ 3章 国宝一遍聖絵の世界 4章 歴代上人と遊行 時宗のひろまり 5章 時宗の道場とその名宝 1章では京都・知恩院の阿弥陀如来立像、島根・萬福寺の二河白道図、2章では滋賀・高宮寺の真教上人像、兵庫・興長寺の阿弥衣、3章では一遍聖絵、4章では京都・長楽寺の真教上人倚像、神奈川・蓮台寺の真教上人坐像、5章では滋賀・阿弥陀寺の行快作阿弥陀如来立像、神奈川・清浄光寺の後醍醐天皇像などを展示した。			
学術的意義	・京都は時宗にとってきわめてゆかりの深い場所で、本展覧会はその京都ではじめて開催される時宗をテーマにした大規模総合展であった。 ・関西において国宝一遍聖絵12巻の全巻を一挙に公開するのは、修理完成を記念して展示して以来17年ぶりのことであった。 ・時宗寺院にはまだまだ知られざる宝物、謎に満ちた宝物も多く、今回の調査でも京都・聞名寺の阿弥陀三尊像が行快作であることが分かるなど、いくつかの新発見をはじめとする学術的成果があった。			
教育普及	・記念講演会(5回) 4月13日「時宗教団の変遷」長澤 昌幸 氏(大正大学専任講師) 4月27日「一遍・真教の念仏思想」長島 尚道 氏(時宗教学研究所顧問／真光寺住職) 5月11日「国宝 一遍聖絵一旅と風景、その魅力と謎」井並 林太郎(京都国立博物館研究員) 5月18日「時宗のみほとけ―阿弥陀と祖師像を中心に―」浅湊 毅(京都国立博物館 連携協力室長) 5月25日「一遍聖絵に見る聖性と熊野信仰」遠山 元浩 氏(遊行寺宝物館長) ・ワークショップ「一遍さんを探そう!―さわって楽しむ絵巻物―」を会期中に実施。 ・公益財団法人仏教美術研究上野記念財団と共催で研究発表と座談会「一遍聖絵と遊行上人縁起絵」を開催した(4月20日)。 ・時宗京都声明研究会の協力を得て、記念イベント「時宗声明と踊躍念仏」を実施した(4月28日)。			
その他 (運営・広報・サービス等)	・運営: 国宝一遍聖絵12巻が通期で参観できるように、前期後期で摸本を取り合わせて場面替えを行った。展示に際しては、作品題箋などで原本と摸本の区別を明確にした。 ・広報等: NHK日曜美術館(5月12日)にて放映。そのほか各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載された。			
補 足				
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	
来館者数	66,678人	70,000人	C	
【年度計画に対する総合評価】 評価: B		【判定根拠、課題と対応】 時宗という宗派に焦点を当てた展覧会は数少なく、ゆかりのある京都にて大規模な展示を実現できたことの意義は大きい。来館者目標にはわずかに及ばなかったが、文化財をとらえて時宗が果たしてきた歴史的役割を視覚的に提示することができた。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】 (京都国立博物館) ア 特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」(10月12日～11月24日) (目標来館者数8万人)(38日間)				
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室研究員 井並林太郎	
【実績】		 告知ポスター		
展覧会名	特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」			
会 期	10月12日(土)～11月24日(日)(38日間)			
会 場	平成知新館			
主 催	京都国立博物館、日本経済新聞社、NHK京都放送局、NHKプラネット近畿、京都新聞			
作品件数	137件(うち国宝 5件、重要文化財 61件)			
来館者数	136,811人(達成率:171%)			
入場料金	一般 1,600円、大学生 1,200円、高校生 700円			
アンケート結果	満足度 72.9%			
【成果】				
企画構成 展示作品	絵巻であった佐竹本三十六歌仙絵が大正8年(1919)に一歌仙ずつ分割され、くじ引きによって別々に所有されてからちょうど100年の節目を迎える年に、離ればなれに伝わっている佐竹本断簡を多く集結させることに主眼を置いた企画を行った。佐竹本やその分割に関わる作品(くじ引きに使用された竹筒など)によって事件を振り返るとともに、平安時代から鎌倉時代にかけての絵巻物や古筆といった王朝美術の名品や、さらには佐竹本の所有者であった近代数寄者たちの茶道具を展示した。			
学術的意義	歌仙絵の最高峰とされる佐竹本断簡が一般向けの展覧としてもっとも多く集まったのは昭和61年(1986)の20件であった。今回はこれをはるかにしのぐ31件が集結し、絵はもちろんのこと、分割によって付された各断簡の表具を一度に鑑賞することができるまたとない機会となった。そのうえで関連する書画や茶道具の展示を行うことにより、佐竹本という作品自体の絵画史上／書道史上／和歌文学史上の高い価値を再認識するとともに、作品の伝来や保存について考える契機を多くの一般来場者に提供することができた。また、出品された佐竹本全件の表具を収録した図録は高い反響を呼び、販売も好調であった。			
教育普及	・会期中ワークショップ「顔を描こう!～和歌で感じる歌仙のころ～」5,662名参加 ・英中韓3言語による「鑑賞ポイント」の作成・配布 ・開幕記念講演会「冷泉家の歴史と文化 ー冷泉流歌道をめぐってー」冷泉為人氏 168名参加 ・記念講演会「歌仙絵の成立と展開 ー佐竹本への道のりー」土屋貴裕氏 190名参加 ・記念講演会「歌仙絵の最高峰 ー佐竹本三十六歌仙絵の表現と情緒ー」井並林太郎研究員 200名参加 ・特別講演会「巡る美 変わる美 ー流転する日本文化ー」彬子女王殿下 180名参加 ・記念講演会「佐竹本三十六歌仙絵への想い」降矢哲男研究員 200名参加			
その他 (運営・広報・サービス等)	30年度内に東京で記者発表を開催、元年度に京都で2度記者発表を開催。主催の日本経済新聞・京都新聞ほか各紙、NHK「ヒストリア」「日曜美術館」特集番組「響きあう美 佐竹本三十六歌仙絵」、テレビ東京「新美の巨人たち」ほかテレビ各番組やニュース報道、ニコニコ生放送などネット媒体で紹介。ポスター・チラシ等を制作し、交通広告ではJR・京阪の車両内や各駅でサイネージを含め掲示。マンガ「ちはやふる」とのコラボレーション(描きおろしイラスト複製原画展示など)や、公式Twitterを使用した「令和36歌仙になろう」企画を行い、主に若者をターゲットとした広報にも注力した。			
補 足	 佐竹本三十六歌仙絵展 会場風景  「ちはやふる」複製原画展示			
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	
来館者数	136,811人	80,000人	A	
【年度計画に対する総合評価】 評価: A		【判定根拠、課題と対応】 佐竹本が31件集結するという貴重な機会を提供できたのみならず、絵画史・書道史・茶道史・国文学史といった広範にわたる関心を引き起こす学術的意義のある展示であった。また、各広報媒体を駆使し世間の興味を高めることで、目標値を上回る来館者数を得ることができた。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】				
ア 特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展—曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき—」(4月13日～6月9日) 曜変天目茶碗など国宝9件を所蔵する大阪・藤田美術館の所蔵品から、奈良ゆかりの仏教美術や絵巻・茶道具など名品の数々を紹介する。 (目標来館者数5万人)				
担当部課	学芸部	事業責任者	情報サービス室長 岩井共二	
【実績】				
展覧会名	特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展—曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき—」			
会 期	4月13日(土)～6月9日(日) (51日間)			
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館			
主 催	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKプラネット近畿			
作品件数	128件 (うち国宝9件、重要文化財53件)			
来館者数	158,078人 (達成率：316.2%)			
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円			
アンケート結果	満足度 89.3%			
告知ポスター				
【成果】				
企画構成 展示作品	公益財団法人藤田美術館が所蔵する、国宝9件、重要文化財53件すべてを展示した。(会期中展示替えあり)。 展示構成では、仏教美術を中心に、奈良にゆかりのあるものを紹介した。国宝・曜変天目茶碗を中心とした茶道具、茶掛けなどの墨蹟、仏教説話画、仏像、仏画、仏教工芸、経典、仮面、能装束、工芸、考古資料など多彩なコレクションを通じて、コレクションを創始した藤田傳三郎の功績を紹介した。			
学術的意義	展覧会開催にあたり、藤田美術館の所蔵品の中から、仏教美術を中心に選んで、調査、高精細画像撮影(出陳品全128件を含む)、近赤外線撮影、X線CTスキャン調査など、多角的に学術調査を行った。その結果、本展初出陳の文化財を10件ほど見いだすことができた。また、古写真や資料から、新たに当初の所在が明らかになったものも5件ほどあった。こうした最新の学術的成果も展示パネル等で紹介した。			
教育普及	3回の公開講座(4月20日、5月11日、5月25日)に加え、藤田美術館所蔵の国宝 玄奘三蔵絵をもとに、絵巻を作成しながら絵巻という形式の美術品を学ぶ親子ワークショップ「オリジナル絵巻を作ろう」(5月5日)を開催した。さらに、同館所蔵の国宝 曜変天目茶碗にちなみ「抹茶体験」(5月19日)や「曜変天目茶碗モチーフのアクセサリ作り」(5月26日)の親子ワークショップを開催した。 また、子供向けのジュニアガイド「藤田でんごぶろうからの挑戦状」を作成、配布し、クイズ形式で展覧会理解の促進を図った。			
その他 (運営・広報・サービス等)	会期中、世界に3碗しかない曜変天目茶碗が、滋賀・MIHO MUSEUM (大徳寺龍光院蔵)、東京・静嘉堂文庫美術館でも同時期に公開されることになり、三館共同で広報活動を行い、各館の入館者増加に大きく貢献した。			
補 足				
【定量的評価】項目		年度実績	目標値	評価
来館者数		158,078 人	50,000 人	S
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】		
評価：A		藤田美術館所蔵の仏教美術を学術的に調査撮影することにより、奈良伝来の仏教美術が数多く含まれていることや、未紹介のマニ像を発見するなど、展覧会初紹介の作品を出陳することができた。全出陳品を当館で新たなデジタル画像で撮影し、新知見を展示や図録で紹介し学術的にも価値の高い展覧会を構築できた。広報面においても、藤田美術館所蔵の国宝9件重要文化財53件全公開や、曜変天目茶碗の三碗同時期公開などの広報展開が功を奏し、曜変天目茶碗の人気と相まって、多くの人に優れた文化財を観覧する機会を提供できた。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】				
ア 特別展 御即位記念 第71回正倉院展（10月26日～11月14日） 正倉院宝庫に伝わる宝物約70件を展示。 （目標来館者数18万人）				
担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長	内藤栄
【実績】				
展覧会名	御即位記念 第71回正倉院展			
会 期	10月26日(土)～11月14日(木)（20日間）			
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館			
主 催	奈良国立博物館			
作品件数	41件			
来館者数	277,133人（達成率：154.0%）			
入場料金	一般1,100円、高校・大学生700円、小・中学生400円			
アンケート結果	満足度 87.4%			
告知チラシ				
【成果】				
企画構成 展示作品	天平文化の精華を広く国民に公開する秋恒例の展覧会。71回目となった元年度も、正倉院宝物を特徴づける器物、染織品、文書・経巻などの出陳品で構成されたが、とりわけ聖武天皇にゆかりの深い宝物、天皇即位に関わる宝物を初め、正倉院を代表する宝物が多数出陳され、御即位記念の年にふさわしい内容となった。第1会場（東新館）は、まず聖武天皇・光明皇后ゆかりの宝物や献物帳の展示を通じて正倉院宝物の成り立ちを紹介し、次いで調度品の展示から当時の宮廷生活の一端をうかがう構成とした。第2会場（西新館）は、前室からの流れを受け、天皇・皇后が着用した冠や礼服等の展示で宮廷の装いを紹介した後、荘厳具や供養具など東大寺の法会に関わる宝物、さらに大陸に起源をもち法会でも演じられた伎楽関連の宝物を展示し、シルクロードを通じた東西交易へとテーマを繋げた。終盤は、宮中儀礼に関わる宝物や正倉院文書の展示を通じて、当時の国の統治のあり方を紹介するとともに、棚や古櫃の展示で宝物の保存と伝承を意識していただける場を設定した。御即位記念を冠しての開催であることに鑑み、宮廷での儀礼や暮らしにスポットを当てた展示としたが、正倉院宝物の成立や保存といった側面にも着目するなど、正倉院宝物の全体像がうかがえるような構成を意図した。			
学術的意義	正倉院宝物がまとまって公開されるほぼ唯一の機会であり、中には史上初めて一般に公開される初出陳品も含まれるなど、本展開催に伴う学術的意義は大きい。また、出陳品には、宮内庁正倉院事務所による近年の調査で成果の示されたものも含まれており、最新の知見を広く紹介する場ともなった。 図録には新写や初公開を含む多数のカラー図版を掲載し、最新の知見を踏まえた解説を用語解説とともに収録し、宝物の学術的評価をわかりやすく明瞭に伝えることに努めた。また、最新の知見をコンパクトにまとめた小論文（「宝物寸描」）や、新視点を盛り込んだ概説も掲載し、研究の最前線に手軽に触れ得る内容とした。			
教育普及	会場には宝物毎に簡潔な解説を付した題箋を設置した。また、正倉院宝物の概要や、展示構成に沿ったコーナー毎の見どころを記したパネル、部分拡大図、技法解説等を随所に配置し、特に今回は即位に関わる出陳品についてのスポット解説のパネルも作成した。解説のほとんどは日・英・中・韓の4言語とし、多言語対応に努めた。さらに、代表的な宝物については上記4言語に対応した音声ガイドに加え、子ども向けの音声ガイドも作成することで、幅広い層を対象に理解の促進を図った。 会期中には特別講演会1回、公開講座2回、「即位と正倉院宝物」をテーマとした学術シンポジウム1回、解説付きの親子鑑賞会1回を実施した。また1日4回（公開講座の日は会場の都合で2回）、ボランティア解説員による見どころ解説を講堂にて行った。さらに、会期前には京都美術工芸大学で、研究員による出前授業を実施した。			
その他 (運営・広報・サービス等)	特別協力者（新聞社）の協力を得て東京でも報道発表を行い、また新聞・交通広告を大規模に展開し、周知に努めた。さらに特別協力者と協力して新聞の特集紙面を構成し、会場でも配布したほか、奈良県内の学校等へも送付した。 館内に予約制の託児室を設け、観覧環境の充実に努めた。待ち列部分では映像を流し、観覧環境の向上や観覧マナーについて啓発及び注意喚起を行った。また、元年度より大きな荷物の持ち込みに制限を設け、手荷物預かり所やコインロッカーの利用を呼び掛けることにより、観覧環境の向上を促した。 会場は自由動線とし、壁沿いの展示をできるだけ減らし、また宝物の展示間隔にゆとりをもたせるなどして、混雑緩和を図った。車椅子で見やすい高さの展示にも努めた。 なお、会期中には、本展と連動する企画として、当館地下回廊にて「特別企画 正倉院展ポスター 平成をふりかえる」（会期：9月10日～11月17日）の開催があった。			
補 足	【特別講演会】 11月4日（月・祝）「遺愛とその輝き」中西進氏（高志の国文学館館長） 【公開講座】 11月2日（土）「正倉院に伝わる作り物をめぐって―仮山残欠を中心に―」清水健（当館） 11月9日（土）「正倉院の風鐸―金銅鎮鐸について―」細川晋太郎氏（宮内庁正倉院事務所）			
【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評定	
来館者数	277,133人	180,000人	A	
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 30年度より来館者数が増加し、満足度の上昇も見られた。出陳宝物の内容もさることながら、パネルや音声ガイドの充実等に注力したことが、上記結果に繋がったものと考えている。一方、展示の高さ、題箋の掲示位置、解説の文面や分量、照明などについては今後も改善を図り、観覧者の満足度向上につとめたい。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】				
ア 特別展「毘沙門天一北方鎮護のカミ」(2年2月4日～3月22日) 毘沙門天信仰とともに生み出された多くの優れた美術品を紹介する。 (目標来館者数5万人)				
担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長	内藤栄
【実績】				
展覧会名	特別展「毘沙門天一北方鎮護のカミ」			
会 期	2年2月4日(火)～3月22日(日)(42日間) ※臨時休館：2年2月27日(木)～3月22日(日)			
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館第1室			
主 催	奈良国立博物館、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKプラネット近畿、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会			
作品件数	37件(うち国宝2件、重要文化財18件)			
来館者数	16,675人(達成率：33.4%)			
入場料金	一般1,500円、高校・大学生1,000円、小・中学生500円			
アンケート結果	満足度 97.5%			
【成果】				
企画構成 展示作品	当館では過去に「浄土曼荼羅」展や「ブツダ釈尊展」、「菩薩」展など、特定の尊格にテーマをしばった仏教美術展を開催してきた。本展はその伝統・流れに即したもので、日本の毘沙門天彫像の優品37件を一堂に会した初めての試みであった。 構成は第一章から第四章までの4部構成とした。第一章は「独尊の毘沙門天像」、日本における現存最古の毘沙門天像である愛媛・如法寺像(奈良時代：8世紀)を皮切りに、平安時代から鎌倉時代にかけての作品22軀を展示した。素材別では木心乾漆造、木造、銅造であり、20軀の立像に加えて珍しい2軀の坐像も展示した。第二章は「毘沙門三尊像」で、半世紀ぶりの展覧会への出陳となる京都・鞍馬寺の毘沙門天・吉祥天・善膩師童子の3軀や、アメリカからの里帰りとなる個人蔵の像など、合計3件7軀の作品を展示した。第三章は「双身毘沙門天像」で、2体の毘沙門天像が背を合わせて立つ珍しい像容の作品の展示コーナーである。希少なジャンルの作品で、古像はきわめてまれであるが、近年の新発見の作品を含め、3件を展示しえた。最後の第四章は『兜跋』形毘沙門天像。国宝指定の京都・東寺像を含む9件11軀の展示であった。愛媛・金竜寺像のような展覧会初出陳のものを含んでいる。 なお第一会場と第二会場との間のフロアを利用して、四川省に遺品の集中する中国の毘沙門天像を写真パネル展示のかたちで紹介することも行った。			
学術的意義	日本の毘沙門天像の優品をほぼ網羅した展覧会であり、日本における毘沙門天信仰が仏教の歴史のなかでも特に重要な位置を占めていたことを確認しえた。平安時代前期における毘沙門天像を一挙同時にながめることでこの時代の美意識の個性をよく示すことができた。平安時代後期の諸作品の展示を通じて、京都と奈良の作風の違いも抽出しえた。坐像の毘沙門天像の展示を通じては、日本の毘沙門天像の源流が中国に見いだせ、その奈良時代におけるわが国への流入に端を発し、その後の自立的展開を生んだことも理解しえた。また制作年代について諸説あった鞍馬寺毘沙門三尊像についても、客観的なデータを示しつつ時代性を示せし、アメリカからの里帰りの個人像については、その像内銘を初めて示し、平安彫刻史における基準作品として位置づけることができた。双身毘沙門天像についても、これまで鎌倉時代の作と考えられていた京都・浄瑠璃寺像が平安時代の作とみるべきものであることを主張し、大方の賛同を得たし、岐阜・長福寺像のような全く未紹介の新出作品も展示できた。その用語について様々な学説のある「兜跋」形毘沙門天像についても、今後の議論のための重要史料の提示や新たな解釈を示しつつ、初公開作品を含む優品の展示によって、今後の学術研究のための土台を築き直したと自負する。本展をきっかけに、毘沙門天像に関する研究の飛躍・発展が期待できよう。			
教育普及	講演会を3回実施する計画であったが、2年2月15日の名古屋大学・龍谷大学名誉教授の宮治昭氏による「毘沙門天の源流を探る—インドからガンダーラ・西域へ—」と題する1回を行ったのみで、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から展覧会そのものが中断された結果、残り2回については実施できなかった。ただし宮治氏の講演会はほぼ満席の盛況であり、終了後のアンケートの結果もきわめて好評であった。			
その他 (運営・広報・サービス等)	第一会場と第二会場との間のフロアには、上記写真パネル展示のコーナーのほか、映像コーナーも設けた。展覧会に出陳された京都・鞍馬寺像と愛媛・金竜寺像、岩手・三熊野神社毘沙門堂像の3作品を取り上げ、像が安置される現地の風景や土地の人々の祈りの状況を通し、毘沙門天像に寄せられた信仰の実態と歴史を紹介した。			
補 足	新型コロナウイルス感染拡大防止のため2年2月27日(木)から3月22日(日)まで臨時休館とした。			
【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評価	
来館者数	16,675人	50,000人	D	
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 会期の半ばで予定入館者数の半分に達してはいないが、臨時休館直前の入館者数は上向きであったし、通常会期終了が近づくにつれ入場者は増加するので、臨時休館がなければ予定入館者数に肉薄ないし凌駕したと予想される。また図録の購買率は入館者10名に1冊を超える高さであった。アンケートの評価もきわめて高評価であった。臨時休館後、研究者、一般を問わず観覧を望む声が多数寄せられた。以上により、年度計画に対する総合評価はAとしたい。		



告知チラシ



告知チラシ

【書式A（特別展）】

施設名

九州国立博物館

処理番号

1221Dア

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】				
ア 特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」(4月23日～6月16日)				
大報恩寺に数多く伝わる、快慶晩年の「十大弟子像」、行快による秘仏本尊「釈迦如来坐像」、定慶による「六観音菩薩像」など、快慶派仏師の名品を中心に展示する。				
(目標来館者数7万人)				
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課長	楠井隆志
【実績】				
展覧会名	特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」			
会 期	4月23日(火)～6月16日(日) (49日間)			
会 場	九州国立博物館 特別展示室			
主 催	九州国立博物館・福岡県、大報恩寺、読売新聞社			
作品件数	15件 (うち国宝0件、重要文化財7件)			
来館者数	53,524人 (達成率: 76.5%)			
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,000円、小・中学生600円			
アンケート結果	満足度 84.6%			
告知ポスター				
【成果】				
企画構成 展示作品	京都の大報恩寺が2年度に開創800年を迎えることを記念し、快慶作「十大弟子立像」、行快作「釈迦如来坐像」、肥後定慶作「六観音菩薩像」など大報恩寺に伝わる「慶派仏師」による名作の数々を一堂に紹介した。また、近接する北野天満宮境内にかつてあった北野経王堂ゆかりの名宝や関連する絵画作品等も紹介し、京洛の釈迦信仰の拠点であったその歴史を振り返ることができる展示構成とした。通常の特別展と比べて展示作品数はかなり少ないが、その分空間的に余裕のある会場づくりが実現した。			
学術的意義	快慶晩年の代表作「十大弟子立像」が10軀一堂に公開されること、秘仏本尊の行快作「釈迦如来坐像」が寺外初公開となること、肥後定慶作「六観音菩薩像」6軀すべてが360度全方向から鑑賞できることなど、史上初の内容や取り組みが多い展覧会となったことは高く評価される。			
教育普及	展示室内の一角に教育普及コーナー「ザ・慶派の手仕事」を設置し、主要展示作品である「釈迦如来坐像」、「十大弟子立像」、「六観音菩薩像」に見ることができる4つの技法(「玉眼」「金泥塗り」「漆箔」「截金」)を模型、解説パネル、工程パネル、動画、材料の実物展示により紹介した。主要展示作品を鑑賞する前に仏像彫刻技法をわかりやすく解説するコーナーを設けたことで、観覧者には、展示理解はもちろん、作品の細部を見ることの楽しさを実感してもらうことができた。 会期中に以下の講演会・イベントを開催し、展覧会の普及につとめた。 記念講演会: 4月27日、「鎌倉彫刻の巨匠 運慶・快慶とその次世代の仏師たち」(東京国立博物館 皿井舞氏)、参加者120人、5月25日「千本釈迦堂・大報恩寺の歴史」(大報恩寺住職 菊入諒如氏) 参加者160人			
その他 (運営・広報・サービス等)	・写真家小野祐次氏撮影になる印象的な写真を使用したポスター・チラシ、交通広告を作成した。そのため仏像愛好者以外の関心も刺激し、おおいに注目を集めた。 ・今回、重要文化財「六観音菩薩像」6軀すべての写真撮影について特別に許可いただいた。撮影者が作品鑑賞者の妨げとなることも十分予想されたため、撮影可能エリアを作品前方に設置した特設ステージ上からと限定した。これにより鑑賞者と写真撮影者のエリアが明確に区画されたため、会期中双方からの苦情等のトラブルは全く発生しなかった。今後、展示作品の写真撮影が認められる機会が多くなると予想されるが、今回の試みはひとつのモデルケースとなる。 ・展覧会会期中はテレビ出演や動画公開など、展示室以外でも展覧会の魅力を伝えた。			
補 足				
【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評価	
来館者数	53,524人	70,000人	D	
【年度計画に対する総合評価】 評価: C		【判定根拠、課題と対応】 質の高い作品が揃う展示内容ではあったが、大報恩寺の九州における知名度がさほど高くない状況下、展覧会の魅力を十分に伝えることができず、広報戦略的に大いに苦戦した。新元号「令和」の反響は文化交流展にとどまり、特別展示室への観覧者増加には至らなかった。展覧会名称やPRポイント発信法の工夫など、今後一層の分析・研究が必要である。ただ来館者数こそ目標値には至らなかったが、アンケート調査によれば、展覧会全体の印象、空間デザイン、撮影エリアの工夫、教育普及の取り組みなど高い評価を得ることができた。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展			
【年度計画】				
ア 特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」(7月13日～9月1日) 歴代将軍の肖像やゆかりの文化財から、室町幕府の栄枯盛衰と個性あふれる将軍たちの魅力に迫るとともに、彼らが愛し、価値づけた名品を通して、南北朝時代から室町時代にかけての多彩な芸術文化を紹介する。 (目標来館者数4万人)				
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課主任研究員 一瀬智	
【実績】			 告知ポスター	
展覧会名	特別展「室町将軍―戦乱と美の足利十五代―」			
会 期	7月13日(土)～9月1日(日) (45日間)			
会 場	九州国立博物館 特別展示室			
主 催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TVQ九州放送、テレビ西日本			
作品件数	134件(うち国宝14件、重要文化財71件)			
来館者数	86,399人(達成率:216.0%)			
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,000円、小・中学生600円			
アンケート結果	満足度87.9%			
【成果】				
企画構成 展示作品	室町幕府の初代足利尊氏から15代義昭まで、歴代将軍の栄枯盛衰と個性ある魅力に迫りつつ、南北朝時代から戦国時代にわたる240年間の激動の時代と重厚な文化について概観する特別展。展示室では歴代の肖像画やゆかりの深い絵画・古文書・工芸品を数多く紹介したほか、特に将軍会所における唐物を用いた座敷飾りを実物資料によって復元し、また寺外で初の一斉公開となる京都・等持院所蔵の歴代将軍木像13軀を、一堂に鑑賞できる空間で展示した。			
学術的意義	本展は、室町将軍が積極的に主導した、日本と東アジアとの交流と、新たな文化の創出を大きなトピックとし、特に前者は三代将軍足利義満が開拓した明との外交・貿易について、後者は公家文化や大陸文化を複合して形作られた新たな美の価値観と歴代将軍との関係について重点を置いた構成とした。これらは歴史学や美術史学における近年の新たな研究成果に基づいたもので、実物資料をもってそれを紹介できたことは意義深い。また禅宗や東山文化、戦国時代等ではなく、15人の歴代将軍を切り口とする新たな視点は、これまでの展覧会に無い新たな試みであった。			
教育普及	中学2年の学習内容に対応したワークシートを作成し、周辺地域の中学校と会場において配布した。 展示室には、15人の将軍を印象付けるために、伝来する肖像を参考に、装束にも考証を加えて歴代将軍のイラストを作成し、各将軍のパーソナリティを特徴付けるキャッチコピーを添えて、入口に掲示した。幅広い年代に好評を得ることができ、導入部分に設置したことで、来館者の理解に資することができた。また勘合貿易の「勘合」について、最新の研究成果を元に実物大復元を作成し、その当時の作成・使用方法を解説する体験コーナーを設けた。このほか初代将軍尊氏と太宰府とのゆかり、及び洛中洛外図屏風に描かれた人々の暮らしや風俗について、解説パネルを設置した。 また復元勘合を使って、日明貿易のシステムを体験するワークショップを4回(7月19日、8月7日の各午前・午後)開催し、「勘合」が使用された意味と時代背景について、参加者の理解を深めた。なお両日も午後の部は、視覚障がい者を対象として実施した。8月1日と15日には視覚障がい者を対象とする特別展観覧ツアーを開催し、通常とは異なる解説やハンズオンの体験コーナーを設けて特別展を案内した。			
その他 (運営・広報・サービス等)	等持院の歴代将軍像をメインビジュアルとした広報物を作成したほか、展示作品の多彩さと重厚さを伝えるテレビCMを放映した。また開幕半年前の2月に東京にて記者発表を行ったことで、早くから各方面の注目を集めた。会期中にはテレビ・ラジオ出演や講演会等による広報にも努め、館内でも次のような各種イベントを実施した。記念講演会:「将軍家のアジア外交」橋本雄(7月14日)・「室町将軍の再評価」呉座勇一(8月3日)、華道家元池坊次期家元による講演会・デモンストレーション(8月11日)、リレー講座:一瀬智・末兼俊彦(7月20日)、シンポジウム「京都・等持院 歴代室町将軍像の謎に迫る」根立研介・大田壮一郎・高岸輝・楠井隆志(8月12日)			
補 足				
【定量的評価】項目		年度実績	目標値	評価
来館者数		86,399人	40,000人	A
【年度計画に対する総合評価】		【判定根拠、課題と対応】		
評価:A		室町将軍を切り口とする初の本格的な展覧会となった本展は、寺外初の一斉公開となる等持院歴代将軍像をメインビジュアルとした広報印刷物・CM やテレビ出演の効果もあって高い注目を集め、目標人数を大きく上回る来館者を得られた。座敷飾りや歴代将軍像の展示空間、および教育普及の各コーナーも質の高い効果が得られ、来館者の満足度は非常に高かった。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信				
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展				
【年度計画】					
ア 日中文化交流協定締結40周年 特別展「三国志」(10月1日～2020年1月5日)					
日本でも人気の高い三国志について、選りすぐりの文物と最新の研究成果をまじえてその実像に迫る。近年発見された、三国志の英雄・曹操の墓「曹操高陵」の出土品を紹介する。 (目標来館者数7万人)					
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	企画課特別展室主任研究員 川村佳男		
【実績】		 告知ポスター			
展覧会名	日中文化交流協定締結40周年 特別展「三国志」				
会 期	10月1日(火)～2年1月5日(日) (77日間)				
会 場	九州国立博物館 特別展示室				
主 催	九州国立博物館・福岡県、中国文物交流中心、NHK福岡放送局、NHKブラネット九州、西日本新聞社、朝日新聞社				
作品件数	161件(うち一級文物(日本の国宝相当)42件)				
来館者数	140,155人(達成率:200.2%)				
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,000円、小・中学生600円				
アンケート結果	満足度78.0%				
【成果】					
企画構成 展示作品	プロローグ「伝説のなかの三国志」、第1章「曹操・劉備・孫権 英傑たちのルーツ」(1.曹操の家系、2.劉備の家系、3.孫権の家系)、第2章「漢王朝の光と影」(1.漢王朝の栄華、2.黄巾の乱と董卓、3.涿郡－劉備旅立ちのまち、4.献帝－後漢のラストエンペラー)、第3章「魏・蜀・呉 三国鼎立」(1.漢から三国の武器、2.定軍山の戦い、3.樊城の戦い、4.諸葛亮の南征、5.石亭の戦い、6.合肥新城の戦い)、第4章「三国歴訪」(1.三国歴訪－魏、2.三国歴訪－蜀、3.三国歴訪－呉)、第5章「曹操高陵と三国大墓」(1.曹操高陵、2.曹丕と鮮卑頭、3.魏の曹植墓、4.蜀の大墓、5.呉の大墓)、エピローグ「三国終焉 天下は誰の手に」。「石碑 魏武帝曹操所用格虎大戟」などの曹操高陵出土品(中国国外初出品)を中心とした中国の発掘資料のほか、NHK「人形劇 三国志」で使用した人形や横山光輝「三国志」の漫画の原画などで構成。				
学術的意義	これまで正史『三国志』、『晋書』など文献資料から研究が進められてきた三国志の歴史について、曹操高陵をはじめとする出土資料から新たな光を当てた。日本でも人気の高い三国志に対する認識をより豊かにして頂くことを目的とした。東京国立博物館、九州国立博物館及び中国文物交流中心による国際共同学術プロジェクトとして、日中文化交流協定締結40周年を記念して実施した。				
教育普及	記念講演会を2回実施:「ここまで分かった“リアル三国志”－新発見の考古資料から読み解く－」(10月20日)講師:川村佳男、特別記念講演会(12月14日)「曹操高陵の考古学的発見と研究」講師:潘偉斌(河南省文物考古研究院第一研究室副主任)・「三国志の時代と卑弥呼の鏡」講師:辻田淳一郎(九州大学大学院人文科学研究院准教授) 関連イベント:「びじゅチューン!なりきり美術館&三国志 コンサート」10月14日、「きゅーはくミュージアムコンサート 中国悠久の調べ」11月9日、「ナイトミュージアム 英雄(ヒーロー) 現る!!」11月22日・12月14日、「夜な夜な三国志」11月23日、「視覚に障がいのある方を対象とした特別展『三国志』観覧ツアー」12月5日・12月11日				
その他 (運営・広報・サービス等)	ポスター・ちらし・インターネット・SNS・新聞広告・各種ミニコミ誌・テレビ出演・ラジオ出演・出張講座等で積極的な広報を展開し、1日平均来場者数1,800人以上をほぼ会期全体にわたって維持した。また、「視覚に障がいのある方を対象とした観覧ツアー」の実施や「ナイトミュージアム 英雄(ヒーロー) 現る!!」では手話通訳をつけることで、視覚・聴覚に障がいのある方でも展覧会を楽しんで頂けた。				
補 足	文化交流展示室にて特別展「三国志」の関連展示を3件実施した。「長崎の関帝信仰」期間:11月12日～12月22日、担当:楠井隆志(展示課長)、「重要文化財 三国志呉志第十二残巻」期間:11月12日～12月22日、担当:松浦晃佑(文化財課研究員)、「重要文化財 金銀錯嵌珠龍文鉄鏡」期間:11月6日～2年1月19日、担当:小澤佳憲(展示課主任研究員)、川村佳男				
【定量的評価】項目		年度実績	目標値	評定	
来館者数		140,155人	70,000人	A	
【年度計画に対する総合評価】 評定:A		【判定根拠、課題と対応】 目標人数を達成した。発掘によって得られた出土資料から三国志の歴史の新たな側面に光を当てようとした本展覧会は、「日中文化交流協定締結40周年」という時宜にかなった国際学術事業であり、大きな成果を挙げたと言える。また、来館者アンケートによる満足度について、「とてもよかった」及び「よかった」との回答割合が、展覧会の内容については78%、解説文については77%が、展示方法については85%と高かった。これは、展覧会の意義を観覧者に十分に伝え得たことの表れと判断できる。			

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】			
ア 特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華 大様式の形成と変容」(2月4日～3月29日) フランス絵画が偉大で華やかな発展を遂げた17世紀から19世紀を、古典主義、ロココ美術、アカデミズムの名作の数々でたどる。 (目標来館者数6万人)			
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	学芸部特任研究員 臺信祐爾
【実績】			
展覧会名	特別展「ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華 大様式の形成と変容」		
会 期	2年2月4日(火)～2月26日(水) (20日間)		
会 場	九州国立博物館 特別展示室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、東京富士美術館、西日本新聞社、毎日新聞社、九州朝日放送		
作品件数	86件		
来館者数	45,636人(達成率: 76.1%)		
入場料金	一般1,600円、高大生900円、小中生500円		
アンケート結果	満足度85.4%		
			
告知ポスター			
【成果】			
企画構成 展示作品	フランス絵画が偉大で華やかな発展を遂げた17世紀から19世紀をたどる展覧会。第1章はブッサン(《コリオラスに哀訴する妻と母》)や王立美術アカデミーに注目して古典様式を、第2章は18世紀のロココ美術をヴァトー(《ヴェネチアの宴》)らの傑作で、第3章はフランス革命後のアングル(《オルレアン公フェルディナン＝フィリップ、風景の前で》)らの新古典主義、ドラクロワらのロマン主義などに注目して19世紀の美術を取り上げる。第4章では画家の個性が際立つデッサンを紹介する。油彩69点(うち日本初公開は17点)及びデッサン17点(うち16点は初公開)。		
学術的意義	当館ではこれまで印象派・ポスト印象派に焦点を当てた特別展2本及びヨーロッパ美術の400年を扱う特別展1本の開催実績はあるものの、フランス絵画単独の特別展は初めてである。また一つの美術館コレクションで300年を紹介する特別展は2, 3あったが、フランス、イギリス、ドイツ、日本国内など約20機関から美術史上重要な名作をバランス良く集めたものは、他に例を見ない。古典主義、ロココ美術、新古典主義、ロマン主義などを、教科書的にわかりやすく学べるまたとない機会である。		
教育普及	フランス絵画の専門家である美術史家・大原美術館長高階秀爾氏による記念講演会「フランス絵画の栄光ー古典主義からロマン主義まで」により、本展が取り上げた300年を振り返った。会場内映像を共催者と新たに作成し、300年のフランス絵画の歴史理解が深まるよう配慮した。会場出口付近に、ベルサイユ宮殿鏡の間写真を背景に「ベルサイユのバラ」舞台衣装を展示して、ルイ16世治下の宮廷文化の雰囲気を出した。また、「筑紫野市しとこ九博」、「九州経済調査協会Bizcoli講演会」、「大野城市シニア大学」(新型コロナウイルスの影響で中止)やNHK福岡放送局、TVQ、RKBラジオ、福岡LOVEFMの番組出演など各所で、展覧会の内容について講演及び解説し、普及に努めた。 関連イベントとして、「古楽器が奏でるフランス・バロック音楽のひととき」(演奏会)、「フランス・スタンド」(パネル展示)等を予定していたが、コロナウィルス感染拡大防止対策のため中止となった。		
その他 (運営・広報・サービス等)	東京富士美術館が企画し、美術史家大野芳材氏が学術監修した本展は、東京富士美術館を皮切りに、当館と大阪市立美術館を巡回する。 2年3月半ばに、フランスの7機関より当館会期終了後、クーリエが来日できないため、東京富士美術館・コンサバターによる点検実施後、大阪市立美術館へ輸送せず、当館にて保管しておいてほしい旨の申し入れがあり、対応する予定である。		
補 足	コロナウィルス感染拡大防止対策として、2年2月27日から3月29日まで休館とした。開館中の平均来館者数は一日2,176人(開会式除く)であった。		
【定量的評価】項目	年度実績	目標値	評価
来館者数	45,636人	60,000人 (25,000人) ※1	A
【年度計画に対する総合評価】 評価: A		【判定根拠、課題と対応】 会期中の2年2月27日より新型コロナウイルス感染拡大防止を目的として、臨時休館となったが、開催中の来館者数は一日当たり2,000人を超え、好評を博した。	

※1 括弧内の目標値は、会期変更にとり目標値の見直しによる値。

【書式A】	施設名	東京国立博物館	処理番号	1231A1
-------	-----	---------	------	--------

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供 1/2							
【年度計画】 (4館共通) ア 平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 (東京国立博物館) ア トーハク新時代プランに基づき、多言語による案内、デジタルサイネージ及び誘導サイン等を順次整備する。また、本館改修に向けてサイン計画を策定する。 イ より快適な観覧環境を構築するため、トーハク新時代プランに基づき、展示ケース・照明・内装など展示室等をリニューアルする。								
担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 列品管理課 平常展調整室			事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 城山美香 特別展室長 猪熊兼樹 デザイン室長 矢野賀一 国際交流室長 楊鋭 課長 救仁郷秀明 室長 皿井舞			
【実績・成果】 (4館共通) ア 平常展及び特別展における、題箋及び解説等並びに音声ガイドについて、4言語（日・英・中・韓）にて情報提供を行い、外国人来館者にも理解しやすいよう翻訳のリライトを行った。 イ ・庭園内にユニバーサルデザインの多機能トイレを設置した。トイレ出入口は段差解消のためスロープを取付け、バリアフリー化を推進した。また、視力の弱い方でも疲労が少ないよう、解説のサイズ、レイアウトなどを改善し、フォントを試験的にユニバーサルデザインフォントとした。 (東京国立博物館) ア ・正門から平成館への動線上にバナーを増設し、構内のスムーズな誘導への環境整備を実施した。 ・正門に来館者からの問い合わせが多い内容に関する情報案内を大型看板で増設した。 ・本館に3か所、多言語案内によるデジタルサイネージを設置した。 ・券売所混雑解消のため、また外国人来館者へのPRのため、特別展及び総合文化展にて、新たな複数の電子チケットを導入した。 ・外国人旅行者や修学旅行生等の初めての来館者向けに、簡易な構内マップを制作し、配布した。 イ ・券売所混雑解消のため、また外国人来館者へのPRのため、特別展及び総合文化展において新たな複数の電子チケットの導入を図った。 ・本館各展示室の趣旨に関する説明パネル（入口解説）について、解説内容の改訂、及び視認性の良いデザインへの変更を行った。それに伴って展示室名の翻訳についても見直しをはかり、現代の諸情勢に即したより自然な翻訳へと変更した。 ・東洋館のパネル類の多言語化については、東洋館リニューアルの際に実施していたが、多言語化が不徹底だった9ヵ所について、4ヵ国語がそろるように調整した。 ・本館13室の9台のケースを刷新し、最新の高演色LED照明器具を導入し省エネルギー化を図った。 ・老朽化した本館の第1～第4系統（展示室系統）空調機設備、吸収式冷凍機、冷却塔をオーバーホール整備し、快適な観覧環境を構築した。 ・本館2階「日本美術の流れ」の冒頭に掲げる年表のリニューアルを行った。 ・本館展示室内の休憩用ソファを増設するとともに快適性、デザイン性の高いものに刷新し、満足度の向上を図った。								
【補足事項】								
【定量的評価】 項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
音声ガイド貸出台数	334,164台	—	—	化	223,331	177,522	282,187	218,982
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 本館の入口解説、本館2階の「日本美術の流れ」の解説について、内容及びデザインにリニューアルをし、来館者等が日本文化に親しんでいただく観覧環境を整備した。 また、夜間開館の拡充に合わせて敷地内の照度を上げるとともに、来館者サービスの要ともいえる正門プラザ内のインフォメーションカウンターを正門に移動し、視認性を向上させたことで、より来館者が利用しやすい形とした。						
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 多言語化、解説の増設などを推進し、日本文化になじみのない来館者等の利用にも配慮した観覧環境の提供を順次行っている。外国人を含む日本文化になじみのうすい来館者にとっても日本文化を感じられる展示となるよう、本館1室、4室及び9室に映像展示を設置した。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供 2/2								
【年度計画】 (東京国立博物館) ウ 総合文化展におけるスマートフォンアプリを用いたガイド「トーハクナビ」(日本語版・英語版)の公開を引き続き実施する。中国語版、韓国語版については、音声ガイドを充実させ、「トーハクナビ」の端末とともに貸出しサービスを継続する。またトーハク新時代プランに基づき、多言語対応型の鑑賞ガイドアプリの導入に向け準備を行う。 エ 講座・講演会の会場へのヒアリンググループの設置・管理、スマートフォンアプリを用いた音声認識サービスの運用、ユニバーサルデザインの触知図による対応の継続等、障がい者のための環境整備を充実させる。 オ 「総合案内パンフレット」(7言語(8種):日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)を制作・配布する。 カ 本館2階「日本美術の流れ」の展示を外国人に理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、3言語(英、中、韓)のパンフレットを継続して制作・配布する。 キ 育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供する。									
担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室			事業責任者	課長 竹之内勝典 教育普及室長 藤田千織 室長 丸山士郎				
【実績・成果】 (東京国立博物館) ウ アプリ「トーハクナビ」を継続して提供した。また、「トーハクナビ」のログ解析を継続し、利用者の使用動向の調査・研究を行った。さらに、来館者への貸出サービスとして、日本語・英語は「トーハクナビ」の iPod 端末を、中国語・韓国語はアプリのコンテンツの一部を翻訳し、インストールした音声ガイド端末の貸出を行った。音声ガイドについては、一点作品解説提供の範囲を東洋館、法隆寺宝物館へも拡大した。また鑑賞ガイドについては、言語によるデバイスの差異を解消するべく、新規の鑑賞ガイドアプリ開発・制作を行った エ ユニバーサルデザインの触知図の設置、ギャラリートーク・講演会会場でのヒアリンググループの設置・管理、音声認識ソフトによるコミュニケーション支援・会話の見える化アプリ(UD トーク)の導入など、障がい者のための環境整備を実施した。さらに、点字を併記した総合案内パンフレットの印刷と無料配布を継続した。 オ 「案内と地図」(総合案内パンフレット)(7言語(8種)):日 122,000 部、英 80,000 部、中(簡体字 24,500 部・繁体字 9,000 部)、韓 10,000 部、仏 16,000 部、西 10,000 部、独 7,500 部)を制作・配布した。 カ 本館2階「日本美術の流れ」の3言語(英、中、韓)のパンフレットを継続して制作・配布した。 キ 育児中の来館者が快適に観覧できるよう託児サービスを提供した。特に、トーハクキッズデー(8月4日)及びお盆期間中(8月9日～15日)は当日受付も実施し、サービスの拡大を図った。また、上野文化の杜との協力事業として、上野文化の杜 音めぐり(2月12日、13日)は託児室の無料開放を実施した。 さらに、託児サービス委託業者のウェブサイトにて、トーハクキッズデーの告知を出すなど、当館事業の周知も図った。									
【補足事項】 (東京国立博物館) ウ 各アプリの年度のダウンロード件数及び貸出件数は以下の通りである。 ・Android 版「トーハクナビ」4,080 件(累計 23,483 件、24 年 4 月 18 日公開) ・iOS 版「トーハクナビ」12,953 件(累計 56,980 件、25 年 9 月 26 日公開) ・貸出件数 30,962 件(累計 85,123 件)(日英中韓の総計) ・「法隆寺宝物館 30 分ナビ」は公開を終了してはいないが、iOS9 以降に対応していないため、最新の端末で新規に DL、使用することはできない)									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
-		-	-	-	-	-	-	-	-
【年度計画に対する総合評価】 評定: A		【判定根拠、課題と対応】 公開中のアプリ「トーハクナビ」は17,033件のダウンロード実績をあげた。貸出サービスにおいては、アプリ端末及び音声ガイド端末合わせて年間30,962件を貸出した。アプリ・音声ガイドの作品解説提供範囲も拡大している。この鑑賞ガイドについては、言語によるデバイスの差異を解消するべく、新規の鑑賞ガイドアプリ開発・制作を実施中である。ほかに障がい者のための環境整備、7言語の「総合案内パンフレット」の制作・配布、3言語の「日本美術の流れ」のパンフレット制作・配布、託児サービスの提供等、年度計画は順調に達成されている。							
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。									
【中期計画に対する評価】 評定: B		【判定根拠、課題と対応】 パンフレットの制作・配布、ガイドアプリの公開・貸出による多言語化、聴覚障がい者向けの設備の充実、託児サービスやキッズデーによる子ども連れの来館者への配慮など、一定の成果はあげている。引き続き幅広い来館者の利用に配慮した快適な観覧環境の提供のための施策を推進したい。 また、元年度は来館者から問い合わせが多い事項を正門案内業務委託会社より聴取し、それを踏まえた案内情報を掲載した大型看板類を正門前に増設した。今後も来館者が求める情報を的確に提供することで、来館者のスムーズな入館につなげたい。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供								
【年度計画】 (4館共通) ア 平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語(日・英・中・韓)にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 (京都国立博物館) ア 館内案内リーフレット(7言語(8種):日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)を継続して配布する。 イ デジタルサイネージやSNSを活用し、効果的な情報発信を図る。									
担当部課	総務課 学芸部			事業責任者	課長 西尾佐枝子 企画室長 山川暁				
【実績・成果】 (4館共通) ア 平常展及び特別展において、題箋及び解説等並びに音声ガイドを用いて情報提供を行った。継続して4言語(日・英・中・韓)に対応した。 イ 一部のガラス製自動扉の視認性が悪く、衝突等の通行上のバリアとなっていたことから同所についてサインの見直しを行った。 (京都国立博物館) ア 館内案内リーフレット(7言語(8種):日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)を継続して配布した。 イ SNSを活用して、災害時の臨時閉館情報等を効果的に発信した。									
【補足事項】 (京都国立博物館) イ ・特別展開催時の混雑状況をツイッターで情報発信した。 ・台風情報による臨時閉館案内を、4言語(日・英・中・韓)で発信した。 ・デジタルサイネージを用い、イベント開催の案内をした。 ・4言語による名品ギャラリー(平常展)閉室案内サインを設置した。 ウ 音声ガイド利用台数 計 50,191台 ・特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」(4言語:日、英、中、韓) 7,298台 ・特別展「流転100年 佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」(4言語:日、英、中、韓) 27,385台 ・名品ギャラリー(4言語:日、英、中、韓) 15,508台									
									
三十六歌仙絵展 音声ガイドポスター									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
音声ガイド貸出回数		50,191台	-	-		109,167	36,584	128,728	104,463
【年度計画に対する総合評価】 評価:A			【判定根拠、課題と対応】 元年度も題箋及び解説等の4言語対応を継続実施した。特別展の音声ガイドについては人気声優を起用し利用者の増加と満足度の向上を図った。名品ギャラリー(平常展)の題箋や解説等は内容を充実させ4言語化を推進した。館内施設のバリアフリー化も推進した。						
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。									
【中期計画に対する評価】 評価:A			【判定根拠、課題と対応】 快適な観覧環境の提供を行うべく、博物館内の施設のバリアフリー化を実施した。題箋を含め各種表示の多言語化を充実させることで外国人来館者に対する観覧環境を向上させることに努めた。名品ギャラリー(平常展)案内サイン等についても視認性を高めるように努め、幅広い層の来館者等に配慮した観覧環境を提供した。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供									
【年度計画】 (4館共通) ア 平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語(日・英・中・韓)にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 (奈良国立博物館) ア 快適な観覧環境を提供するための計画的な整備を行う。 イ 誘導サイン等の一層の整備を図り、より快適な観覧環境を確保する。 ウ 正倉院展の際に託児室を設置するとともに、混雑状況・待ち時間の速報を行う。 エ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 オ 多言語による案内について充実を図る。										
担当部課	総務課			事業責任者	課長 臣守常勝					
【実績・成果】 (4館共通) ア 名品展(平常展)「珠玉の仏たち」(なら仏像館)においては、解説パネル、題箋のうち主要作品の4割を解説文まで4言語(日・英・中・韓)とし、各特別展でも主要作品約20点については、解説文まで4言語とした。名品展、特別展では、4言語の音声ガイドを提供した。題箋の作品名、技法、時代等の情報については、全て4言語を提供した。 イ ・5月より、なら仏像館に音声ガイドスクリプト(日・英・中・韓)を設置し、耳の不自由なお客様にも音声ガイドの内容を楽しんでいただけるよう工夫した。 ・「御即位記念 第71回正倉院展」、特別展「毘沙門天―北方鎮護のカミ―」では、骨伝導イヤホンを使用した音声ガイドの貸し出しを行い、耳の不自由なお客様にも音声ガイドの内容を楽しんでいただけるよう努めた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため館内に手指用アルコール消毒液を設置し、接遇スタッフはマスクを着用することとした。また、これらの対策内容を記した掲示物を館内に設置し、お客様に安心して博物館を楽しんでいた だけよう工夫した。 (奈良国立博物館) ア 展示室の適正な温湿度管理のため、空調機メンテナンス計画に基づき、機器の修繕を行った。 イ 誘導サインの多言語化整備を行い、観覧環境の改善を図った。 ウ 正倉院展会期中に無料の託児室を開設し、保育士2人が常駐して満1歳児から未就学児まで、2時間以内の預かりを実施した。また、案内看板、ウェブサイト、ハローダイヤルを通じて広報を行い、利用率の向上を図った。 エ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中:簡体字・繁体字、韓、仏、独、西)を継続して制作した。 オ 総合案内カウンターに外国語(英語、中国語)対応ができるスタッフを常時配置し、近年増加している外国人来館者への案内を行った。										
【補足事項】 (4館共通) ア 特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展」「御即位記念 第71回正倉院展」、「毘沙門天」及び名品展(平常展)「珠玉の仏教美術」において、パネル、題箋(解説文は「正倉院展」以外は一部分のみ)、音声ガイドを全て4言語(日・英・中・韓)提供した。また元年度は、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」でも、主要作品の題箋を解説文まで4言語化した。 (奈良国立博物館) ウ 正倉院展会期中の無料託児室は、日本国内のみならず海外からの来館者にも利用され、託児数121人の利用があった。 オ 中国人来館者が増加する時期に外国語(中国語)スタッフを増員して対応した。										
【定量的評価】項目			元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
音声ガイド貸出台数			67,512台	-	-		49,546	42,210	63,751	63,299
【年度計画に対する総合評価】 評定: B			【判定根拠、課題と対応】 無料託児室の設置は利用者から好評を得ており、元年度の託児室利用者数は30年度よりも増加した。また、来館者が多く混雑が予想される展覧会については、詳細な待ち時間の速報や誘導サインの増設を行い、快適な観覧環境の確保に努めた。							
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。			【中期計画に対する評価】 評定: B							
【判定根拠、課題と対応】 無料託児室の設置により、お子様連れの来館者にも快適に正倉院展を観覧していただけた。2年度以降も引き続き託児サービスを提供できるよう努力する。また、音声ガイドスクリプトや骨伝導イヤホンを導入し、より多くの来館者に博物館を楽しんでいただけるよう工夫した。今後は、様々なサービスの周知に努めるとともに、より快適な観覧環境の提供を目指して努力していく。										

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供							
【年度計画】 (4館共通) ア 平常展及び特別展における、題箋および解説等並びに音声ガイドについて、4言語(日・英・中・韓)にて情報提供を行い、来館者に対するサービスの向上を図る。 イ 館内の施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進し、来館者等の利用に配慮した快適な観覧環境の提供を行う。 (九州国立博物館) ア 快適な観覧環境を保持するため、サインや照明等の空間デザインを工夫し、満足度の高い展示の実現を目指す。 イ 展示室の年間カレンダーを見やすいものに更新し、分かり易い情報発信に努める。 ウ 館内案内リーフレット(7言語:日、英、中、韓、仏、独、西)を継続して制作する。 エ 音声ガイドシステム(4言語:日、英、中、韓)の内容充実に努める。 オ 新しい解説システムの導入を検討する。								
担当部課		学芸部企画課 展示課 総務課		事業責任者		課長 白井克也 課長 楠井隆志 課長 國谷勝伸		
【実績・成果】 (4館共通) ア 平常展、特別展ともに、30年度から継続して4言語(日・英・中・韓)にて情報提供を行った。また、解説等の英語表記に関してはネイティブの実地視察によるアドバイスを受け、改善を行った。 そのほか、装飾古墳シアターの番組はこれまで、上映する言語(日・英)を来館者の要望があった際に手動で切り替えていたが、11月19日より2番組について①日本語字幕、英語ナレーション、②日本語字幕、日本語ナレーションを交互に上映するように変更した。 イ エントランスホールから展示室への誘導をより分かりやすくするため、ホール正面の壁に案内バナーを設置した。その他のホール内の案内サインについても整理・見直しを進め、ピクトグラムやユニバーサルデザインを取り入れた案内看板を作成、設置した。 また、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供をめざし、2月24日にユニバーサルガイド養成講座を実施した。 (九州国立博物館) ア 平常展のテーマ解説パネルについて30年度より継続して文面・デザインの再検討を行った。さらに、テーマ解説パネルを随時増設・更新した イ 平常展特集展示の案内を展示室外の館内各所に設置し、認知度の向上と観覧者の増加に努めた。季刊情報誌「アジアージュ」においては、平常展を継続して取り上げ、広報に努めた。 ウ 館内案内リーフレットを継続して7言語(日・英・中・韓・仏・独・西)で制作し、配布した。 エ 音声ガイドシステムの内容充実を継続した。 オ ミュージアムトークへの手話通訳や要約筆記の導入など、従来の文字・音声の解説にとどまらない、多様な解説方法を模索した。								
【補足事項】 (4館共通) ア 平常展音声ガイド貸出数 日本語:1,796台、英語:2,447台、中国語:3,197台、韓国語:1,750台 特別展音声ガイド貸出数 ・京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ:6,587台 ・室町将軍一戦乱と美の足利十五代:17,624台 ・三国志(通常版)25,362台、(コエーコラボ版)4,174台 ・ルネ・ユイグのまなざし フランス絵画の精華展:6,239台 ○スーパーハイビジョンシアター多言語視聴機器貸出数 英語:1,906台、中国語:2,998台、韓国語:703台								
								
「三国志」展でのコラボ版音声ガイド								
【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
音声ガイド貸出回数	69,176台	-	-	化	70,955	98,845	52,425	65,167
【年度計画に対する総合評価】 評価:B		【判定根拠、課題と対応】 展示全般にわたって多言語での情報提供を実現しただけでなく、エントランスホールから展示室への誘導のためのバナーや、分かりやすい案内看板等の設置によって、来館者の視認性向上を実現した。						
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。								
【中期計画に対する評価】 評価:B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画の達成に向けて順調に推移している。エントランスホールのバナー設置や英語表記を見直した。また、ユニバーサルデザイン、5言語(日・英・中(簡・繁)・韓)を取り入れた館内案内看板を設置する等、来館者に対する快適な観覧環境を向上させることができた。2年度以降も引き続き、来館者サービスの向上と快適な観覧環境の提供に努めていく。						

【書式A】		施設名	東京国立博物館		処理番号	1232A			
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 ウ 年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館の拡充を実施する。 エ 開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。 (東京国立博物館) ア 特別展等に合わせて軽食販売を行う等、サービスの向上に努める。									
担当部課	総務部総務課				事業責任者	課長 竹之内勝典			
【実績・成果】 (4館共通) ア 年間を通じて総合文化展アンケートは4言語(日・英・中・韓)及び特別展のアンケートは2言語(日・英)で実施し、外国人からの意見聴取に努めた。 イ 来館者のニーズに対応するため、刀剣関連グッズ(マスキングテープ、一筆箋、チケットフォルダ)を開発・拡充し、SNS等で好評を博した。また、若年層への認知度向上のため、公式キャラクター「トーハクくん・ユリノキちゃん」を使用したノベルティ(ノート、マグネット、色鉛筆、ミニトートバッグなど)の新商品を多数開発した。 イ ミュージアムショップやレストランにおいては、アンケート等による利用者の意見把握に努め、運営者と問題点を共有し、サービス向上に努めた。 ウ 年間を通じ、金・土曜21時までの夜間開館を実施した。SNSでの発信、夜間開館実施のポスターを掲出するなど、周知を図った。また、混雑する特別展覧会では、開館を30分早める対応を行った。 ウ 長時間の入場待ち時間が発生した御即位記念特別展「正倉院の世界」において、1年ほど前から共催者、来館者誘導業務委託会社と協議、準備を重ね、整理券を導入し、入場時間までの総合文化展への誘客を図るなど、来館者の利便性の向上に資することができた。 エ 夜間開館時にアンケート調査を実施し、夜間における来館者の意見や要望を把握した。アンケート内容を夜間におけるサービスの充実に繋げた。 (東京国立博物館) ア 特別展開催時期に合わせて、平成館ラウンジにて軽食販売を行った。また、通年で敷地内にてキッチンカーによる軽食販売を実施した。さらに、春と秋の庭園開放時には軽食販売店を増加し、サービスの向上に努めた。									
【補足事項】 ウ 御即位記念特別展「正倉院の世界」では、会期後半を中心に、多くの来館者が正門前で開館時間まで待機する状況となったため、共催者とも調整し、開館時間を30分早めるなど、来館者の安全を重視した柔軟なサービスの提供を心掛けた。さらに、待ち時間対策のため、共催者と協議し、整理券を導入した。 エ 夜間開館に合わせ、アンケート調査の周知や協力者への粗品の配布などを行い、アンケート回収率の向上を図った。 特別展「正倉院の世界」での整理券配布の案内 									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		71.7%	80%超	C	-	-	70.4	68.1	71.3
多言語表記に関する外国人アンケート満足度		76.9%	-	-	-	-	69.7	74.8	72.7
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 以前から来館者からの要望も高かった混雑する展覧会での整理券方式を、十分な準備、体制を整え、大きな問題なく導入することができた。 観覧環境に関するアンケート結果については30年度を超える満足度となったが、目標値には達していないため、課題を分析して改善を図る。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的を実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランとサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 昨今の来館者の増加に対応するため、快適な観覧環境の維持・向上を目的として柔軟な開館時間の設定や整理券の導入、大型看板の設置など、来館者の利便性の向上に資する取り組みを実施した。なお、観覧環境に関するアンケート結果については、特にレストランの利用満足度が低いため、元年度末に、東洋館レストランを改修し軽食を提供するコーナーの新設による改善を図った。2年度以降のアンケート結果を確認し、引き続き満足度の向上を図る。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 ウ 年間を通じ来館者の利便性や周辺行事等に合わせ、特別展も含めた早朝開館・夜間開館の柔軟な設定を検討する。 エ 開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館・夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館・夜間開館時にアンケート調査を実施する。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。									
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 西尾佐枝子 企画室長 山川暁						
【実績・成果】 (4館共通) ア 日本語・英語・中国語・韓国語による来館者アンケートを実施し、幅広い意見の把握に努めた。 イ ミュージアムショップの利用者等の意見を基にオリジナルグッズを企画・開発し、展覧会に応じた関連商品等を取り揃えた。また、レストランでは当館限定のオリジナルメニューを提供した。 ウ 平常展及び特別展開催中の金曜日、土曜日に午後8時まで夜間開館を実施し、7月～9月は午後9時まで開館を延長した。 エ 夜間開館時に来館者アンケートを実施し、多様な時間帯の意見の把握に努めた。 (京都国立博物館) ア アンケートの意見等を受け、ショップ及びレストランに接客対応改善の連絡や新規商品の提案を行った。また、『博物館だより205号』に大和文華館学芸部長 泉万理氏による特別展「佐竹本三十六歌仙絵と王朝の美」の展覧会評を寄稿いただいた。									
【補足事項】 (4館共通) イ - 当館が監修し、トラリんが研究員から日本美術の基礎を学ぶという設定で日本美術の入門書籍シリーズの1巻と2巻(全4巻予定)を発売した。 - 当館収蔵品等をモチーフに、新たに絵葉書、鉛筆、ノートオリジナルグッズを開発、販売した。 ウ - 夜間開館の実施から数年が経ち、ICOM京都大会を記念した特別企画「京博寄託の名宝」で夜間入場者が伸びたように、来館者に認知されつつある。同大会のクロージングパーティを開催した9月7日は夜間開館を中止したが、日中は無料観覧日とした。 2年3月には開館延長の代わりに夜間開催のプロジェクトマップと和食のイベントに協力することとしていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点によりイベントは中止となった。 (京都国立博物館) ア 過去の図録や学術書、オリジナルグッズ等を販売する当館ミュージアムショップのオンラインショップを新たに開設する準備を行った。									
【定量的評価】項目		元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		67.4%	80%超	C		73.1	40.2	63.4	73.1
多言語表記に関する外国人アンケート満足度		67.3%	-	-		82.9	69.3	73.5	82.9
【年度計画に対する総合評価】 評定：C		【判定根拠、課題と対応】 観覧環境に関するアンケート満足度が目標値を下回った。理由として、文化財保護のための空調・照明管理に関する周知不足や、特別展期間中にミュージアムショップやレストランが混雑したことなどが考えられる。外国人アンケートでは、多言語表記を引き続き推進し、満足度の向上を図りたい。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。									
【中期計画に対する評価】 評定：C		【判定根拠、課題と対応】 中期計画4年目として、多言語表記を充実させる等の観覧環境の改善を進めることができた。2年度もレストラン及びショップの運営業者と引き続き連携を密にしてサービスの改善に努めたい。							



書籍『トラリんと学ぶ
日本の美術①』



オリジナル
鉛筆・ノート

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信										
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等										
【年度計画】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 ウ 年間を通じて、来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた夜間開館の拡充を実施する。 エ 開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。 (奈良国立博物館) ア アンケート等の意見を参考にレストランメニューの改善や工夫に努める。 イ ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図る。											
担当部課	総務課			事業責任者	課長	臣守常勝					
【実績・成果】 (4館共通) ア 通年で記述式のアンケートを実施するとともに、複数回にわたって対面式のアンケートを実施した。外国人観光客を含む来館者から寄せられた意見を館内で共有・検討し、改善に努めた。 イ アンケートで寄せられたミュージアムショップやレストランに関する意見・要望をもとに、新たなグッズの開発や展覧会に合わせた商品の開発などを行い、サービス向上に努めた。 ウ 金曜日・土曜日のほか、周辺地域のイベントに合わせて夜間開館を実施した。 エ 夜間開館に対する意見を得るため、夜間開館時にも記述式アンケート調査を実施した。 (京都国立博物館・奈良国立博物館) ア 元年度は特別展の開催時期が例年と異なったため、『奈良国立博物館だより』への展覧会評の掲載は行わなかった。 (奈良国立博物館) ア アンケートで得られた意見を参考にレストランメニューの改善に努め、利用者の満足度向上を図った。 イ ミュージアムショップにおいて展覧会関連グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図った。											
【補足事項】 (4館共通) ア 来館者から、なら仏像館の入口がわかりづらいという声が多く寄せられたため、入口の案内看板を多言語表記で作成・設置した。また、急増する外国人観光客のニーズに応えるべく、館外に多言語表記の看板を設置した。 (奈良国立博物館) ア 特別展にちなんだ限定メニューを提供したほか、わくわくびじゅつギャラリー「いのりの世界のどうぶつえん」期間には、ドリンクを注文されたお客様に限定コースターを無料で提供した。また、改元記念として、2019年4月30日に限り、利用者に対しレストランではお菓子のプレゼント、ショップでは先着100人までオリジナルグッズをプレゼントの企画を実施した。 イ 当館の建物をデザインした手ぬぐい等のオリジナルグッズや、第71回正倉院展で展示される宝物等をモチーフにしたグッズ等をミュージアムショップで販売した。											
				藤田美術館展限定メニュー 「校倉クーヘンと抹茶クリーム」 「いのりの世界のどうぶつえん」 限定コースター							
											
【定量的評価】 項目				元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
観覧環境に関する来館者アンケート満足度				81.9%	80%超	B	-	-	68.0	70.5	75.8
多言語表記に関する外国人アンケート満足度				79.1%	-	-	-	-	67.7	69.7	79.8
【年度計画に対する総合評価】 評定：B				【判定根拠、課題と対応】 観覧環境に関するアンケート満足度については、目標値を上回ることができた。ミュージアムショップやレストランに関しては利用していないという意見も多いため、わかりやすい案内を行うなど利用率向上に向けて努力するとともに、利用者の満足度向上を目指していく。また、多言語表記についての満足度が低下したため、増加しつつある外国人観光客のニーズに応えるべく、多言語表記の充実に向けて努力していく。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。											
【中期計画に対する評価】 評定：B				【判定根拠、課題と対応】 通年で設置している記述式アンケートに加えて、複数回にわたり対面回収による記述式アンケートを実施した。対面アンケートによってアンケート回収率が向上し、より広く来館者の意見を集めることができた。得られたアンケート結果は館内で共有した上で改善に取り組み、ミュージアムショップやレストランに関する結果についても館内で情報を共有した。観覧環境についての満足度は未だ目標値に達していないため、2年度以降も引き続き課題として改善に向けて努力する。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信										
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等										
【年度計画】 (4館共通) ア 展覧事業等に関する満足度調査等に加え、観覧環境に関する来館者アンケート及び多言語表記に関する外国人アンケート等の各種調査を実施し、観覧環境やサービスの改善に努める。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品を提供するなど、サービス向上に努める。 ウ 年間を通じて、来館者の利便性や周辺行事等に合わせて、特別展も含めた早朝開館・夜間開館の拡充を実施する。 エ 開館時間の拡充に合わせて、来館者の早朝開館、夜間開館に対するニーズを把握するために、早朝開館、夜間開館時にアンケート調査を実施する。 (九州国立博物館) ア レストラン利用者にアンケート調査を行い、サービス向上に努める。 イ アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信、オリジナルグッズの提供に努める。											
担当部課	学芸部企画課 展示課 広報課 総務課			事業責任者	課長 白井克也 課長 楠井隆志 課長 石原隆之 課長 國谷勝伸						
【実績・成果】 (4館共通) ア 展覧事業、観覧環境等に関する来館者アンケート調査を、4言語(日・英・中・韓)で実施し、観覧環境やサービスの改善に努めた。 イ ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議の上、オリジナルグッズの開発や展覧会に応じた商品の提供のほか、カフェのドリンクメニューの追加など、サービス向上に努めた。 ウ 平常展・特別展ともに、金曜日、土曜日は午後8時まで夜間開館を実施した。その他、太宰府天満宮のイベントに合わせ、臨時の夜間開館を実施した。 エ 第2・4週の土曜日夜に実施する「夜のミュージアムトーク」では、ファミリーで夜間開館を楽しんでもらうことを目指し、レプリカ等を用いた展示解説を中心に実施している。今後の企画立案や運営に役立てるため、参加者に対するアンケート調査を実施した(計4回)。サンプル数は少ないが、参加者の満足度や評価はいずれも高かった。 (九州国立博物館) ア レストラン利用者にアンケート調査を行い、ニーズを把握しサービス向上に努めた。 イ アンテナショップ「九州国立博物館ミュージアムショップ参道」での情報発信、オリジナルグッズの提供に努めた。									 夜のミュージアムトークの様子  館蔵品から開発したオリジナルクリアファイル		
【補足事項】 ・夜のミュージアムトークアンケート調査実施日と満足度 5月25日「仏像のレプリカにさわってみよう」満足度：100% 7月13日「百済のレンガ つくりかたとつかいかた」満足度：100% 9月28日「更紗にさわろう」満足度：83% 11月23日「遣唐使船が運んだもの」満足度：86%											
【定量的評価】 項目				元年度実績	目標値	評価	経年変化	27	28	29	30
観覧環境に関する来館者アンケート満足度				70.2%	80%超	C	-	-	77.2	63.7	61.6
多言語表記に関する外国人アンケート満足度				80.8%	-	-	-	-	78.8	84.6	78.1
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 展覧事業、観覧環境等に関する来館者アンケート調査のほか、「夜のミュージアムトーク」等のイベントについてもアンケート調査を行い、来館者ニーズの把握に努めるなど、年度計画を実行できた。								
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が80%を超えることを目指す。											
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 オリジナルグッズを開発し、サービス向上に努めたことで売上にも貢献できた。2年度以降は外部アドバイザーとグッズ開発を行う予定であり、魅力ある博物館を目指し、来館者満足度を高めていきたい。								